平成２９年度

教育委員会点検・評価報告書

平成３０年１１月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

１ 点検・評価の対象
２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１ 教育委員会の活動状況の概要報告・・・・・・・・・・・・・・　３
２ 重点施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
３ 重点施策の評定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・　５８

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６０

Ⅵ 参考資料

１　平成 29 年度教育行政執行方針
２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされました。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、平成29年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（19項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめました。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

Ⅱ 評価の手法

1 点検・評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、平成29年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施しました。

2 実施の流れ

(1) 教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

(2) 平成29年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価しました。

点検内容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取組状況	当該年度内に実施した取組の概要
評価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

(3) 教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施しました。

Ａ：達成しているもの
Ｂ：おおむね達成しているもの
Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

(4) 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する行政外部の方からの意見、助言をいただきました。

学識経験者

氏名	所属等
石井憲一氏	元日本工学院北海道専門学校　参与
永井延和氏	登別市退職校長会　会長
吉野幸広氏	前登別市郷土資料館　館長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議については、毎月下旬に開催しました。必要に応じて開催する臨時会議は、平成29年度は行いませんでした。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承されました。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行いました。

(2) 平成29年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

第１回 会議	4/27 16:30	報告第1号　教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理について 議案第1号　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 情報提供1　平成28年度学校運営協議会実施状況について 2　平成29年度登別市立学校児童生徒数・学級数調書について 3　平成29年度登別市立学校主要行事について 4　平成29年度学校施設の工事計画について 5　平成29年度登別市小中学校「校長会」「教頭会」三役等について 意見交換から(委員の意見・感想) ・学校施設の工事計画は32年度には終了するということで安心した。 ・不登校に対するきめ細かな対応をこれからもお願いしたい。
第２回 会議	5/25 16:30	報告第2号　教職員の懲戒処分内申の結果について 議案第2号　登別市図書館協議会委員の任命について 議案第3号　登別市社会教育委員の委嘱について 議案第4号　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第5号　登別市重大事案対策委員会委員の委嘱について 情報提供1　運動会の割り振りについて
第３回 会議	6/29 16:30	報告第3号　平成29年第2回登別市議会定例会一般質問について 報告第4号　平成29年度教科用図書第10採択地区調査委員の委嘱に係る臨時代理について 情報提供1　平成29年度中学生ピロリ菌検査実施状況について 2　平成29年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業について 3　ＡＬＴ新規招致者について 4　第67回社会を明るくする運動メッセージ伝達式の参加について 5　教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について 意見交換から(委員の意見・感想) ・こぐま号のリニューアルに関しての取組には、多くの幼稚園・保育園児の参加を期待する。 ・デンマーク友好都市中学生派遣は、せっかくの機会なので、市内中学生が積極的に参加して見分を深めてほしい。

第４回 会議	7/27 16:30	議案第6号　平成28年度教育行政事務の管理執行状況の点検･評価に係る学識経験者の活用及び選任について 情報提供1　携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート結果と今後の取組について 2　長期休業中における学校図書館の開放について 3　郷土資料館特別展の開催について 4　平成29年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会について 意見交換から(委員の意見・感想) ・携帯やスマホの問題は大人も含めてみんなで考えなければならない問題。親子で考える機会の創出も必要と考える。部屋への持ち込みを含めて家庭で考えていける雰囲気づくりが大切。 関係機関（例えば道の消費者協会など）の出前授業の活用などを活用し、親を巻き込んでいくということも進めてほしい。
第５回 会議	8/24 16:30	報告第5号　平成29年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議会採択結果について 情報提供1　ＡＬＴ新規招致者の紹介について 2　室蘭信用金庫創立100周年記念寄附事業「移動図書館車『こぐま号』リニューアル記念なまえ・ぬりえコンテスト」の結果報告について 3　市民スポーツ・健康フェスティバルの開催について 4　2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業　小椋久美子トークショー＆実技指導について 5　文化芸術による子供の育成事業（巡回公演）の開催について 6　夏休み中における休校日導入の検討について 7　夏休みの学校図書館利用状況について 意見交換から(委員の意見・感想) ・北海道都市教育委員会連絡協議会では、学校と地域、家庭の連携の在り方を改めて考えるきっかけとなった。 たとえば「赤ちゃん登校日」などのユニークな活動に取り組む地域もある。子ども食堂や通学合宿など様々な手法で前向きに取り組むべきという認識を持った。
第６回 会議	9/28 16:30	報告第6号　登別市教育委員会教育長職務代理者の指名について 報告第7号　平成29年第3回登別市議会定例会一般質問について 議案第7号　平成28年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告について 議案第8号　平成29年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 情報提供1　登別市教育フォーラムの実施について 2　第３次登別市子ども読書活動推進計画（案）について 3　北朝鮮による弾道ミサイル発射に伴う対応について 4　家族の時間づくりプロジェクトの実施について 5　平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要について 6　郷土資料館特別展「石碑が語る地域の歴史」について 意見交換から(委員の意見・感想) ・子どもの読書活動に関して、ボランティアへの参加促進や子どもたちが望む本の充足を期待する。

第７回 会議	10/19 16:30	議案第9号　平成28年度教育行政事務の管理及び執行状況の点検・評価報告について 情報提供1　平成29年度登別市功労者表彰及び登別市表彰の被表彰者の決定について 2　教育委員会広報「教育のぼりべつ」H29.10.1号の発行について 3　小学校高学年の外国語科・中学年の外国語活動に向けた取組について 4　ふれあいウィークについて 5　鷲別小学校に開設する言語障害通級指導教室の地区割について 6　市民プールバスパック事業の廃止について 7　西いぶり定住自立圏文化事業について 8　「登別市立図書館のめざすもの」について 意見交換から(委員の意見・感想) ・ふれあいウィークの授業が、道徳だったりスマホの安全教室だったり、保護者にも一緒に考えてほしい内容が組まれていていい。保護者と子どもが共有の認識で考える機会になると考える。
第８回 会議	11/30 16:30	報告第8号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第10号 登別市立学校管理規則の一部改正について 議案第11号 登別市立学校運営協議会設置要綱の全部改正について 議案第12号 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査　「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載の同意について 情報提供1　教育ふれあいウィーク実施状況について 2　登別市キャリア教育懇談会の報告について 3　登別市教育フォーラムの報告について 4　登別市幼保小中連携協議会の取組について 5　平成28年度生涯学習事業　実績と点検評価について 意見交換から(委員の意見・感想) ・ふれあいウィークの授業においては、授業のねらいが参観者に伝わるように、あるいは参観者の思いが学校に伝わるようにさらに工夫をしてほしい。 ・キャリア教育に関して、本市が有する環境を活かして、小中高と専門学校の連携を模索する取組に大いに期待する。 ・幼保小の連携については、それぞれの幼稚園や保育所で様々な取組を行っていると思うので、この協議会で摺合せを十分に行っていただきたい。
第９回 会議	12/21 16:30	報告第9号　平成29年度第4回登別市議会定例会一般質問について 議案第13号 登別市立学校学校医等表彰について 議案第14号 登別市児童生徒就学援助規則の一部改正について 情報提供1　平成30年度教育行政執行方針（案）概要について 2　平成29年登別市成人祭について 3　平成29年度家族の時間づくりプロジェクトプレ実施の施設利用状況について 4　第8回登別市学校給食展について 5　第3次登別市子ども読書活動推進計画(案)に係る意見公募の結果について 6　登別市立図書館のめざすもの(案)に係る意見公募の結果について 7　図書館をそだてていただくための市民の集いについて 8　小・中学生の読書感想文・読書感想画コンクールについて

		意見交換から(委員の意見・感想) ・給食展では、協賛団体の参加があり有意義なものになっている。形態を工夫して一層の活性化を図ってほしい。 ・オリパラ対応について、本市はデンマークのチームを呼ぶと聞いた。子どもたちの交流にもつなげてほしい。
第10回 会議	1/18 16:30	議案第15号 平成30年度登別市教育行政執行方針について 議案第16号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 情報提供1 登別市小中一貫教育基本方針（案）について 2 平成30年度登別明日中等教育学校の合格状況について 3 平成29年度卒業式出席者の調整について 4 管内教育委員会委員研修会について 5 「こぐま号」外観デザイン・新キャラクターネーミング投票コンテストの実施について 6 冬休みの学校図書館利用状況について 7 幌別小学校の平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
第11回 会議	2/22 16:30	議案第19号 登別市小中一貫教育基本方針について 情報提供1 平成30年度登別市教育行政執行方針について 2 平成29年度通学合宿みんなで学ぶ「子ども村」の実施結果について 意見交換から(委員の意見・感想) ・「開かれた教育課程」をどう応援していくかという視点が大切。今まで本市で取り組んできたコミスクの取組を活かしていくことが一層求められる。 ・小中一貫については、そのものの意義やそれぞれの学校区が取り組んでいる内容を市民の方に広く啓発していく必要を感じる。 ・通学合宿は、学校の枠を超えて子どもたちのつながりができる絶好の機会。ぜひ継続をしてほしい取組の一つ。家庭を再認識できる機会でもあると思う。
第12回 会議	3/22 16:30	報告第12号 市議会定例会追加提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第13号 平成30年第1回登別市議会定例会一般質問について 報告第14号 教職員人事の内申に係る臨時代理について 議案第20号 登別市立学校管理規則の一部改正について 議案第21号 登別市学校給食センター処務規程の一部改正について 情報提供1 平成29年度土曜授業事業実績及び平成30年度事業計画について 2 平成30年度進路状況について 3 平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について 4 平成29年度家族の時間づくりプロジェクト本実施の施設利用状況について 5 平成30年度市内小中学校入学式について 6 登別市立鷲別小学校多目的ホール及び特別活動室の地域開放について 7 「郷土資料館特別展 はじめまして！」について 意見交換から(委員の意見・感想) ・子どもたちの体力に関しては、二極化が進んでいるように感じた。 ・ＷＨＯの病気疾患の分類の中に、ゲーム障害が６月に承認される話を聞いた。様々なことを発信する必要性があると思う。 ・中学校での体育コーディネーターの配置も必要ではないか。

(3) 調査活動の実施状況　教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

10/27　緑陽中学校　：
11/17　幌別東小学校：武田教育長
11/22　登別小学校　：武田教育長・堅田委員
2/ 2　幌別小学校　：武田教育長・垣内委員

②教育ふれあいウィーク

10/28・11/11　市内一斉学校公開日「ふれあいウィーク」土曜授業視察
11/ 1　教育フォーラム　助言：赤井委員　参加：堅田委員

③各種会議・研修会の参加

北海道都市教育長会春季定期総会（士別市）5/11　秋季定期総会（北見市）11/6
全国都市教育長協議会（奈良市）5/18・19
胆振管内教育長会議　4/7・5/26・7/20・8/31・12/19
北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（稚内市）8/22
武田教育長・垣内委員・森口委員・赤井委員
胆振管内教育委員会委員研修会 洞爺湖万世閣2/20堅田委員･赤井委員 2/21赤井委員

④入学式出席

鷲別中学校(4/7)　森口委員　緑陽中学校(4/7)　赤井委員
鷲別小学校(4/7)　森口委員　富岸小学校(4/8)　赤井委員
登別小学校(4/7)　堅田委員

⑤運動会参観

青葉小学校(6/3) 垣内委員　富岸小学校(6/10) 武田教育長・赤井委員
幌別小学校(6/17) 武田教育長　鷲別小学校(6/17) 武田教育長・森口委員
登別小学校(6/10) 堅田委員　若草小学校(6/17) 武田教育長

⑥学芸会参観

登別小学校(10/16)　堅田委員

⑦卒業証書授与式出席

鷲別中学校(3/14)　森口委員　緑陽中学校(3/14) 赤井委員
登別中学校(3/15)　堅田委員　若草小学校(3/17) 武田教育長
青葉小学校(3/16)　武田教育長　鷲別小学校(3/20) 武田教育長・森口委員
富岸小学校(3/20)　赤井委員　登別小学校(3/20) 堅田委員
幌別小学校(3/20)　武田教育長　西陵中学校(3/14) 武田教育長

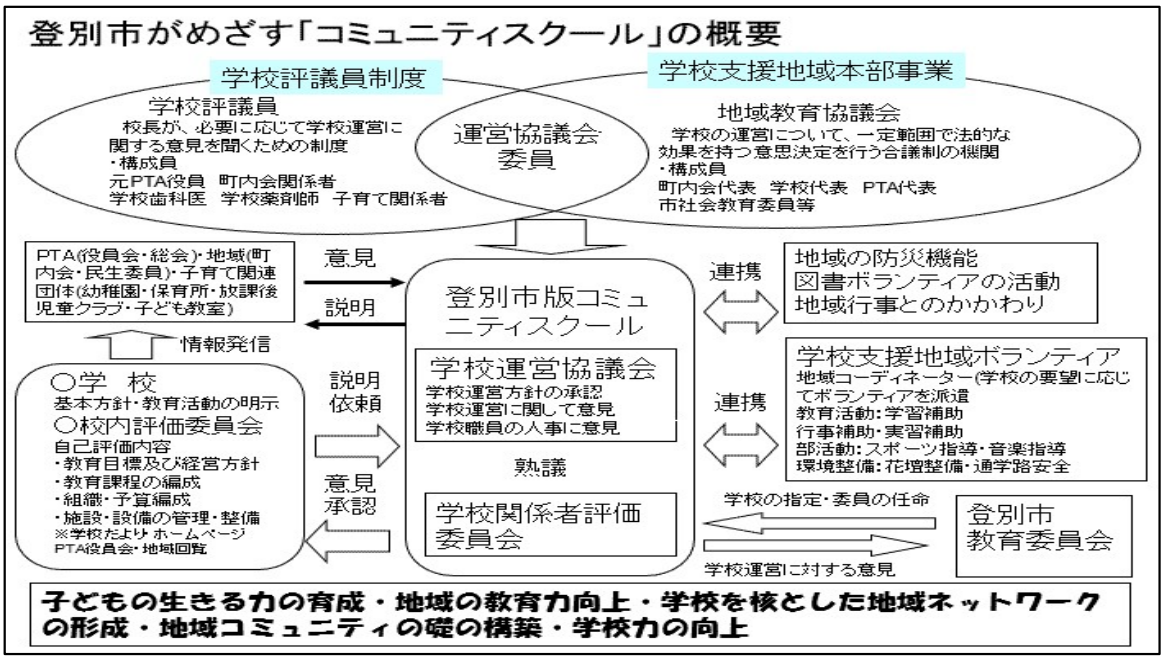
⑧その他

第67回社会を明るくする運動メッセージ伝達式(7/11登別中学校)
武田教育長・堅田委員
学校運営協議会主催ソフトボール交流会(9/23　若草小学校)　武田教育長

２ 重点施策の評価

項　　目	１　地域とともにある学校づくり
点検内容	コミュニティ・スクールを導入して4年目になるが、これまで学校においては地域の様々な意見を反映した学習活動や土曜授業などが実践されるとともに、その活動を広く地域に発信し、地域と一体となった学校運営が推進されている。地域の教育資源を生かした世代間交流や郷土学習の充実、教育フォーラムの開催などを通して、地域と協働で子どもたちを育む活動に取り組む。

取組状況



○学校運営協議会の話し合いの内容

	月	日	主な議題（学校経営方針以外）	次年度の方向性
幌別小	6	29	適配方針説明 学習サポート 体験活動 基本的生活習慣の定着	学力・体力、生活習慣定着に向けての熟議
	11	30	生活や学習の様子 小中一貫の取組 学校評価	
	2	22	生活の様子 学習サポート成果 学校評価結果 不審者対応	
登別小	7	18	適配方針説明 ＯＭＢボランティア あいさつ運動 スマホ関係	幼小中連携の一層の充実 学力・体力向上に向けての熟議
	9	27	前期数値目標達成状況 前期学校評価 学力調査結果概要	
	11	27	【幼小中合同】適配方針説明 幼小中中間報告 スマホ調査結果	
	3	13	学校評価 学校関係者評価　次年度の行事予定	
若草小	6	5	道徳教育推進 学力体力向上策 いじめ不登校等生徒指導状況	若草地域交流まつりの開催 鷲別地区との連携模索
	7	4	1学期の教育活動反省 スポーツ交流会企画 学校と地域行事の確認	
	9	4	スポーツ交流会・反省会準備 町内会との避難訓練反省	
	12	7	2学期の教育活動反省 交流会反省 活動周知方法の検討	
	3	15	学校評価結果 若草地域交流まつり企画 次年度の方向性	
鷲別小	6	1	いじめ防止強化 放課後や休日の生徒指導 学校改築記念行事	心の教育や安全指導で保護者への啓発強化
	9	28	重点進捗状況 学力・体力・生活習慣の状況 落成記念事業協賛会	
	1	11	学校関係者評価委員会　記念事業協賛会進捗状況	

幌東小	5	25	適配方針説明 地域や幌中との合同避難訓練 市民演芸会 学習サポート	学校と地域、保護者との結びつきの一層の強化
	12	20	放課後子ども塾 生活実態調査結果 いじめ防止の状況 駒おどり	
	3	7	家庭学習時間の見直し 地域に開かれた取組反省 開校50周年企画	
幌西小	5	25	ＣＳ基本的考え確認 小中連携事業 防犯パトロール等学校支援依頼	ＣＳと小中連携事業の一体化・三者の行動連携
	10	28	学力・体力・心の面での状況 年度前半の評価	
	2	22	【小中合同】西陵中校区小中一貫推進協議会反省 耐震工事説明	
富岸小	6	1	学力・体力向上策 いじめ防止策 安全・安心な活動の確認	子どもたちの成長と地域の発展を目指した取組
	12	4	学力・体力向上の状況 いじめ認知状況と対応 特色ある教育活動	
	3	6	学校関係者評価 次年度の方向性 外国語科への推進	
青葉小	6	14	学力調査概要 スケートリンク最終整備計画 ふれあい坂の安全	教育課程移行期における取組状況把握
	12	20	学力調査結果に基づく取組 スマホ調査結果に基づく取組	
	3	7	学校関係者評価 30年度教育課程の編成	
幌別中	4	26	いじめ防止 不審者対策 花壇整備 土曜授業 学校行事等	目標の数値化による達成度の見える化
	7	20	授業評価の結果と改善策 保健室の利用状況 いじめ不登校の状況	
	2	1	適配方針説明 学校評価結果 土曜授業を活かしたＣＳの推進	
西陵中	5	15	学力向上対策 特色ある教育活動 土曜授業等の取組	情報発信の日常化⇒生徒の様子共有化
	11	11	適配方針説明 学力調査結果 学習生活早見表 小中一貫の取組	
	2	22	【小中合同】一貫教育に向けた取組の反省 合格祈願餅つき大会	
鷲別中	6	5	保健環境/安全支援/学習支援コミュニティ活動内容 ギタマン部活動	小中一貫とＣＳの取組推進 取組内容の発信
	10	18	３コミュニティ活動反省（登下校安全支援・夏季休業中の見回り等）	
	2	22	学校評価・学校関係者評価結果 ビブリオトーク反省	
登別中	6	7	適配方針説明 学校改善プラン 土曜授業 職業体験受入依頼 熊舞披露	学習/文化伝承/安全環境から支援機能ごとに担当配置
	11	24	【幼小中合同】適配方針説明 幼小中中間報告 スマホ調査結果	
	2	20	学校経営反省 学校評価分析結果 観光地の利点を生かした教育活動	
緑陽中	7	3	学力向上 道徳教育推進 いじめ不登校防止策 登下校の安全確保	早い段階での協議会の開催
	10	13	2学期の教育活動 スマホの関わる指導のあり方や保護者への啓発	
	3	9	学校評価 学校改善プラン 体力調査結果説明 授業改善取組状況	

○各校の土曜授業取組状況　※道の指定を受けて4年目

今年度より全13校が協力校として取り組む。

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
幌別中	4	15	道徳	学級懇談会	学校説明会	全学級道徳公開
	5	27	授業（花壇整備・田植え体験予定⇒雨天のため翌日に延期）			地域連携行事予定
	7	15	授業		学級懇談会	授業参観日
	9	23	避難訓練準備	地域・幌東小との合同避難訓練		場所:体育館 吹奏楽演奏
	11	11	授業	道徳		命を大切にする教室（法務省主催）
	12	16	1年:授業 2年:認知症サポーター養成講座 3年:茶道体験		学級懇談会	講師を招いての授業
幌別小	7	8	授業・短縄チャレンジタイム(1校時3/4年 2校時2/5年 3校時1/6年)			体力テスト
	8	26	授業		授業・スマホ教室5/6年	講師招いての安全教室
	11	11	授業	授業・修学旅行報告会		地域公開
	12	16	授業	授業・道徳		全学級道徳公開

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
幌別東小	8	26	東っ子タイム発表会			総合・生活科発表
	9	23	地域・幌別中との合同避難訓練			避難場所：幌中体育館
	10	28	授業・駒踊り練習・認知症サポーター養成講座・電子メディアとの付き合い方			講師を招いての授業中心
	12	2	市民演芸会で駒踊り発表			
西陵中	7	22	授業	地域清掃予定（雨天のため授業実施）		地域の方と協働で清掃
	8	26	授業	津波避難訓練（幌西小と合同で実施）		地域の方にも声かけて実施
	11	11	授業（道徳）			道徳の授業を公開
	12	16	1・2年～授業　3年～保護者や地域の方と合格祈願餅つき			民生委員の方も参加
幌西小	7	8	全校体力テスト			
	8	26	事前指導	津波避難訓練（西陵中と合同で実施）		市防災による講評
	10	28	授業			全学級道徳公開
	12	2	標準学力検査		長縄大会	長縄大会のみ公開
鷲別中	7	15	道徳	チャレンジテスト		チャレンジテスト活用
	9	16	学級活動	学校祭部門活動		部門ごとに分けての活動
	11	11	1・2年総合的な学習交流 3年進路学習		学級活動	進路学習は集会形式
	12	9	生活向上集会	道徳	学級活動	生活向上集会は生徒会主催
鷲別小	4	22	授業		ＰＴＡ総会学級懇談	保護者参観
	8	26	授業（外部講師活用）			
	10	28	授業（外部講師活用）			地域公開
	12	2	授業		学級活動	保護者参観
若草小	4	15	授業			保護者参観
	7	8	授業（チャレンジテスト）			チャレンジテスト活用
	8	26	授業		津波対応避難訓練	地域と合同で避難訓練
	10	28	授業（道徳）			全学級道徳公開
	11	11	授業		集団下校訓練	登下校の安全確認
	12	9	授業		不審者対応訓練	外部講師招いての訓練
登別中	4	15	授業		学級懇談会	保護者参観
	7	8	地獄祭り練習		町内クリーン作戦	熊舞 校区内清掃
	9	30	市総合防災訓練			地域全体での防災訓練参加
	11	11	命を大切にする授業 他		熊舞引継ぎ式	外務講師招いての授業
登別小	4	15	授業			ＰＴＡ総会　学級懇談会
	8	26	授業（2年 収穫祭）		授業 ＯＭＢ(5/6年)	ＯＭＢ地獄祭り参加
	10	28	授業		道徳	地域公開
	12	16	授業		ＯＭＢ定期演奏会	※ＯＭＢ＝鬼っこマーチングバンド
緑陽中	4	22	授業		ＰＴＡ総会	参観日
	7	15	授業			参観日
	9	2	授業		避難訓練	富岸地区避難訓練参加
	10	28	授業			地域公開
	2	3	授業・学年懇談会(インフルエンザによる学級閉鎖のため中止)			

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
青葉小	4	16	授業	授業(全体懇談会)	授業(ＰＴＡ総会)	全体懇談会・ＰＴＡ総会
	5	14	授業	携帯・スマホ教室	授業	講師を招いての教室
	8	27	授業	地震津波避難訓練	授業	地区連合町内会と合同開催
	11	5	授業			地域公開
富岸小	4	15	授業	授業（ＰＴＡ総会）		
	5	13	授業	防犯安全教室	集団下校訓練	マクドナルド防犯教室
	9	2	地域合同津波対策避難訓練		学級活動	緑陽校区3校同日開催
	10	28	授業	道徳		全学級道徳地域公開
	11	25	長縄跳び記録会		学級活動	1時間で3学年同時進行

○ふれあいウィーク(10/28～11/11の2週間)

11/1「北海道教育の日」に合わせて、平成16年から「ふれあいデー」として市民に市内の小中学校を公開してきたが、その取組をさらに発展させ、平成23年からは「ふれあいウィーク」として、その時期に学校公開のほかに講演会や懇談会など各種事業の取組を進めている。学校や地域、保護者が、登別の教育のあり方について考えを深め合う期間として位置付ける。

・学校公開（保護者や地域の方、市民への公開）10/28か11/11のどちらかで実施
来校者：保護者1,226名　地域の方122名　合計1,348名（幌西小6学級閉鎖）
※公開の内容は「土曜授業取組状況」を参照。

・胆振教育講演会　11/6　演題：「夢をかなえる脳」　講師：人間性脳科学研究所長　澤口俊之氏

・中学校吹奏楽部定期演奏会　10/22登別中　10/29幌別中　11/5緑陽中

・特別支援学級作品展　10/14～20　市民会館１F廊下

○教育フォーラム　11/1　18:00～19:40　市民会館中ホール　参加者数80名

地域とともにある学校づくりに取り組んでいただいている、学校運営協議会委員の方々や学校関係者、ＰＴＡの方々、希望する市民の方に呼びかけて実施。

内容：コミュニティ・スクールや小中一貫教育など、市として取り組んでいる施策についての基調提言
西陵中校区と登別中校区の小中一貫した取組を発表
グループに分かれての話し合いと赤井教育委員からの助言

成果：各学校運営協議会の取組を9年間という視点の中でとらえていくことの重要性を確認。小中合同の学校運営協議会の有効性についても話が出された。

○コミュニティ・スクール通信の発行

ほとんどの学校で年間3～12号発行。町内会で回覧。市役所・市民会館・図書館にファイルを設置。

評　　価	コミュニティ・スクールを導入し４年になり、各学校では放課後の見守り活動や学習支援活動、土曜日の地域避難訓練た地域の方を招いての授業など、特色ある教育活動の充実が図られている。また、若草小学校のように学校と地域の距離を縮める独自の取組も生まれてきており、学校支援にとどまらず地域の活性化につながる動きもみられている。
今後の方向性	「学校運営協議会の話し合いの内容」の「次年度の方向性」にもあるように、教育活動の充実のほか、幼保小中が一緒の視点を持ち長い期間で地域の子どもたちを育てていくという考えのもと進めていく方向性も生まれている。 各学校での取組を一層支援していくとともに、地域や学校の活動を広く知ってもらえるよう、さらなる啓発に取り組んでいく。

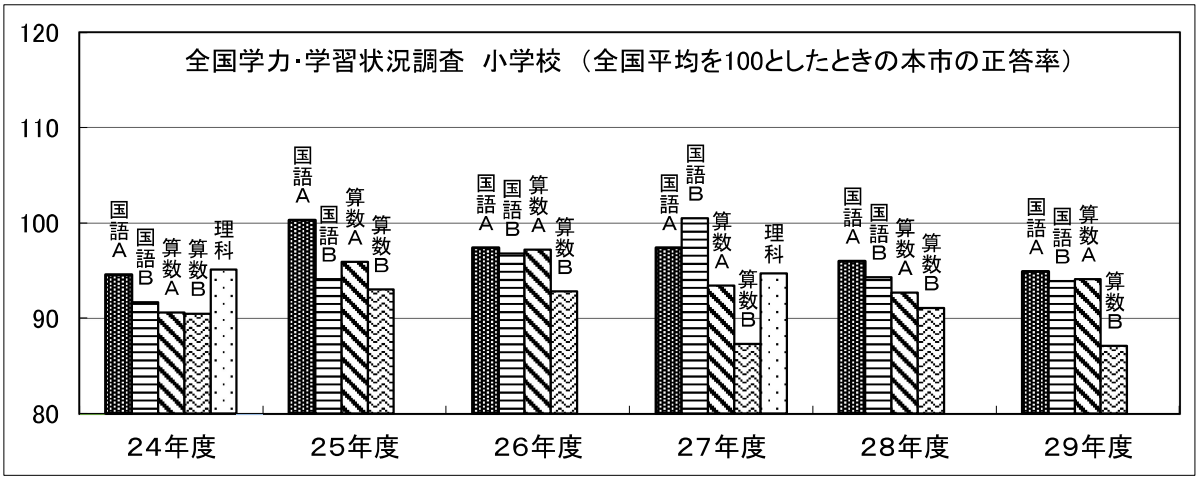
項　　目	2　確かな学力の向上
点検内容	教育課程課題検討委員会において各学校や市全体の分析結果を踏まえた指導方法の工夫改善や学習習慣の定着を図るとともに、学習ボランティアの協力をいただいて実施している放課後学習教室などを通して、基礎的な学習習慣の定着と学ぶ意欲の向上に努める。 英語教育についてはコミュニケーション能力の育成や異文化への理解を深めるため引き続きＪＥＴプログラムによる外国人英語指導助手を活用し、小学校低学年から中学校まで一貫した取組を進める。また、外国人英語指導助手の生活面のサポートや学校における連絡調整などを行うＪＥＴプログラムコーディネーターを増員し、充実した指導が進められるよう支援する。

取組状況

○全国学力･学習状況調査（対象：市内小６年生・中３年生）の結果分析と課題の明確化

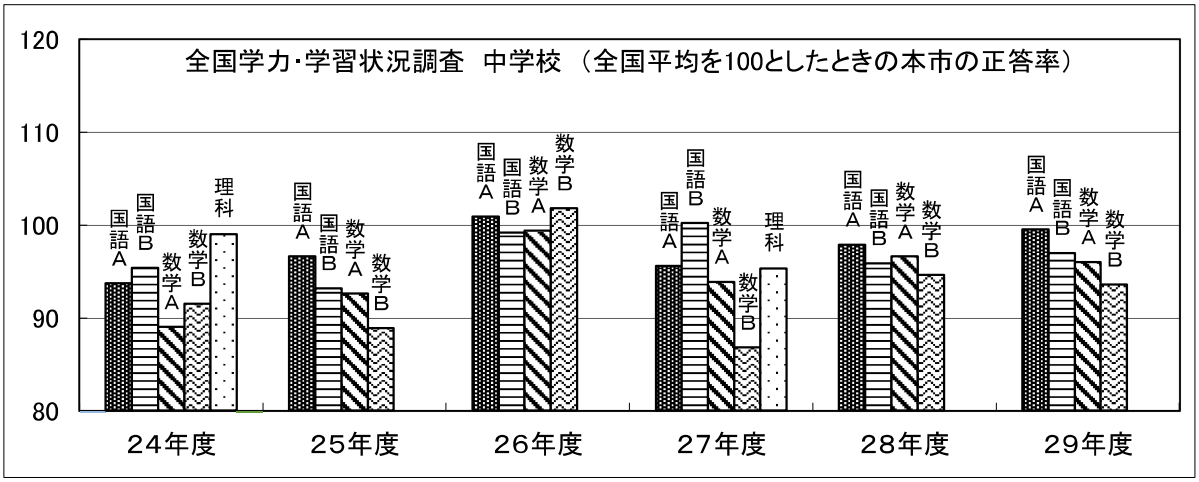
⑴全国平均を１００とした時の登別市の正答率の状況

小学校



・全ての教科において全国の平均正答率を３～５ポイント程度下回っているが、領域別にみると、国語Ａの「書くこと」や算数Ａの「数と計算」で全国平均に最も近くなっている。

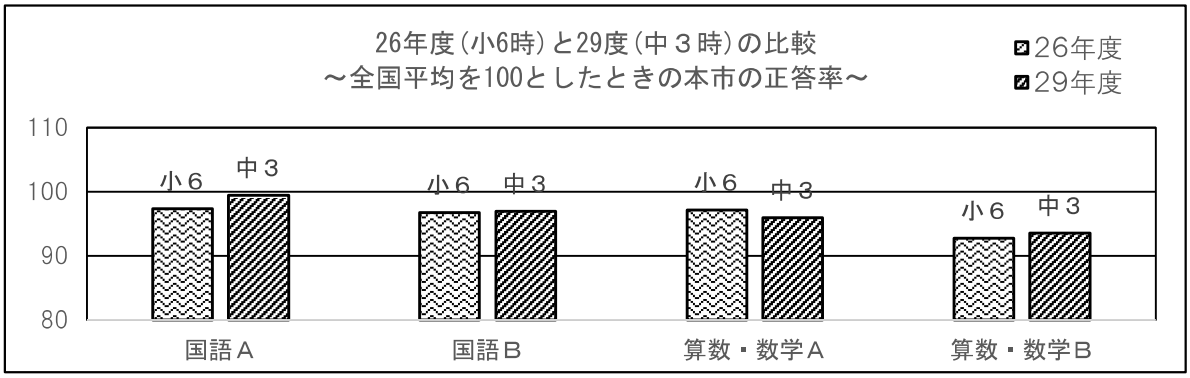
中学校



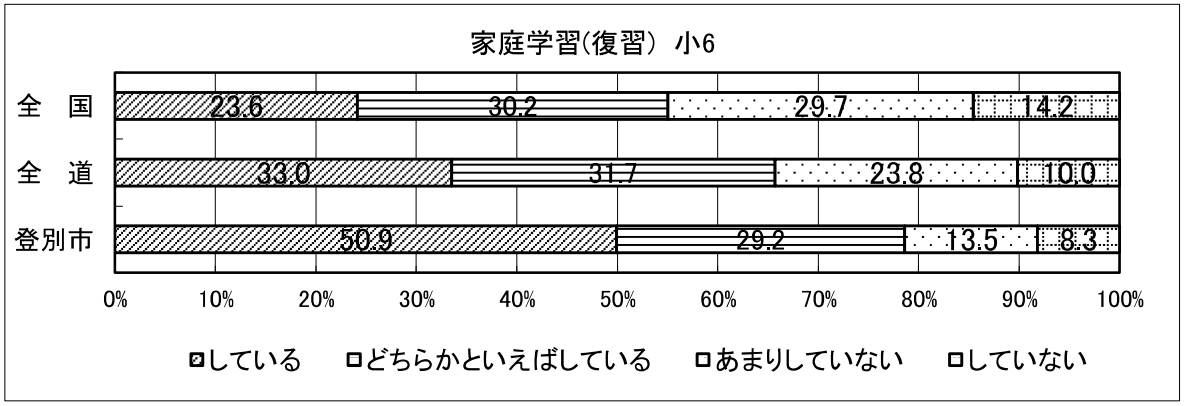
・国語Ａでは全国の平均正答率と同程度だが、他の教科は全国の平均正答率を２～３ポイント下回っている。領域別にみると、国語Ａの「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」国語Ｂの「読むこと」で全国平均を上回っている。

(2)小学６年時と中学３年時の変容

算数・数学Ａ以外、小6の時から改善傾向がみられる。特に国語において、小学校６年生の時から改善が図られている。



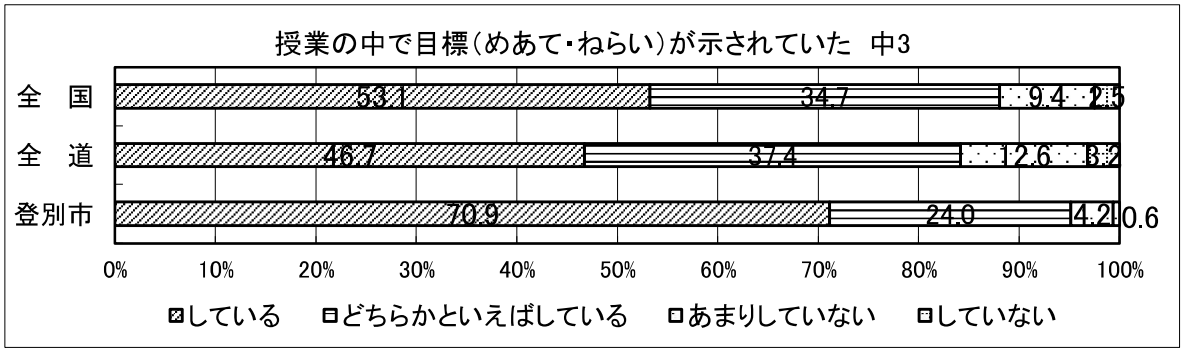
(3)児童質問紙から



・家で、学校の授業の復習をしている児童の割合は、全国よりも高い。

・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と答えた児童の割合が全国を上回っている。

(4)生徒質問紙から



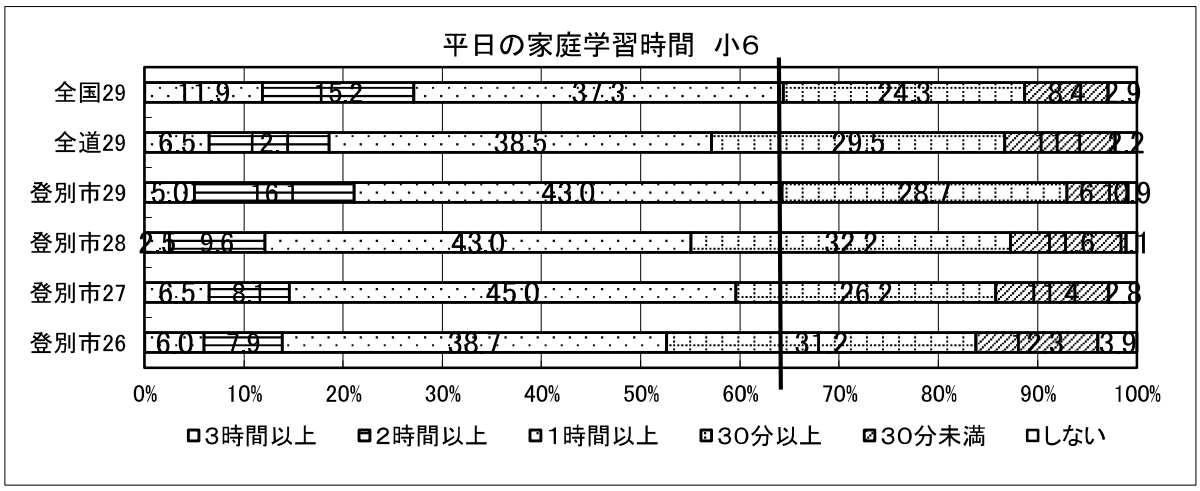
・「授業の中で目標が示されていた」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

(5)学校質問紙から

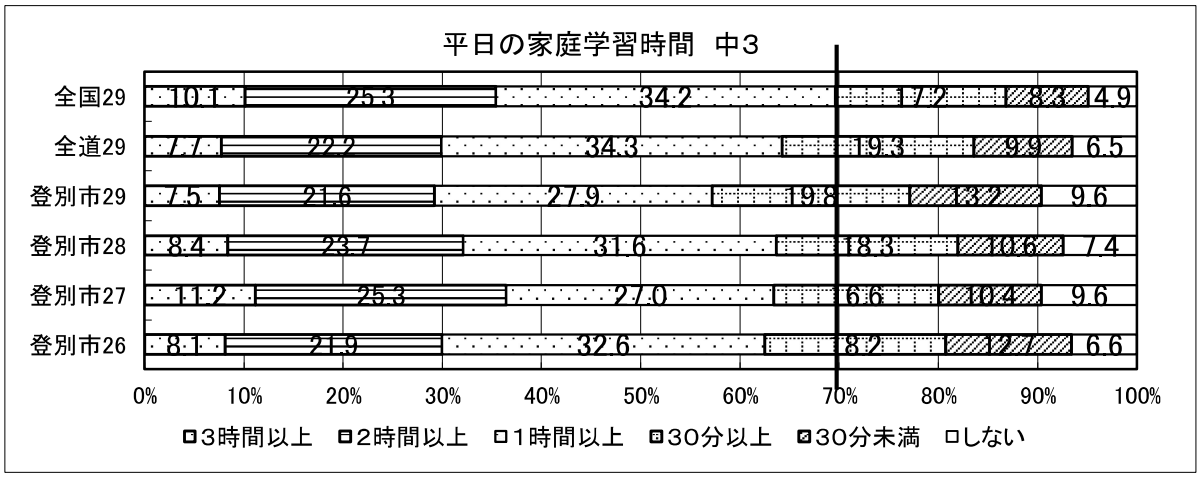
・小学校において、「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけた」、「学習規律の維持を徹底した」と回答した学校の割合が、全国や全道を上回っている。

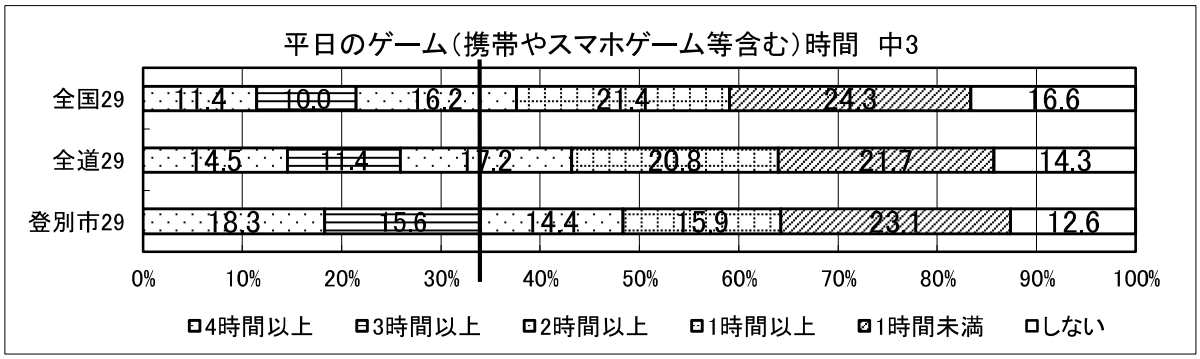
・中学校において、すべての学校が「授業の中で目標が示す活動を計画的に取り入れた」と答えている。また、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国や全道を上回っている。

(6)「１日の家庭での学習時間」全国･全道と本市（4年間）の比較



・小学校では、１時間以上学習する割合が全国64.4%、本市64.1%で同程度。過去4年間で一番増加。「30分未満」の児童は減少で、大きく改善した。





・中学校では、1時間以上学習する割合は全国と12ポイント以上の差。「30分未満」の部分も課題。平日に3時間以上ゲームをする割合が、全国を12ポイント以上上回っている等の生活習慣に課題がある。

○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会～参加者：校長・教頭・学力担当教諭

第1回～6月30日　市教委より授業改善に向け具体的な方法の提示～結果の共有や問題を見抜く方法、調査の活用に仕方等の提示。各学校の課題解決方法の交流（学校種ごとや中学校区ごと）。

第2回・第3回～11月15日・3月7日　新学習指導要領移行措置対応の共通理解を通し各校取組の充実を図る。

②学習支援専門員の配置と学校支援

・配置　教育指導室に主任学習指導員・学習指導員の2名を配置。

・取組　４月　全国調査に向け「心構え」「鬼っ子チャレンジはじまり号・復習問題(算数・数学)」作成と各小中学校への配布

全国調査に向けた放課後学習の実施（登別小・西陵中）

放課後学習教材「鬼っこチャレンジテスト」小学校用の改善と、ドリルの作成

５～３月　放課後学習　実施状況に応じヒントカード、ドリルや繰り返し問題を作成

７月　夏休み学習用「鬼っこチャレンジテスト」の作成配布

２学期 全国学力・学習状況調査結果の分析と考察　チャレンジ問題への反映

12月　冬休み学習用「鬼っこチャレンジテスト」の作成配布

３月　課題を踏まえ次年度に向けた教材の改善

・放課後学習の推進状況　（◇「学校支援地域本部事業」の表P46にも記載あり）

学校名	登録児童生徒数	取組の状況	指導員数
幌別小	5年16名 6年9名	12回実施 5年のべ174名 6年のべ79名	8名
幌西小	4年14名 5年6名 6年8名	15回実施 のべ人数4年189名 5年83名 6年56名	9名
鷲別小	5年27名 6年28名	12回実施 5年のべ185名 6年のべ194名	11名
登別小	5年23名 6年14名	12回実施 5年のべ227名 6年のべ149名	7名
富岸小	5年43名 6年11名	10回実施 5年のべ198名 6年のべ26名	12名
幌東小	全学年	11回実施 のべ689名	35名
若草小	5年11名 6年8名	14回実施 5年のべ102名 6年のべ96名	9名
青葉小	5年27名 6年30名	11回実施 5年のべ223名 6年のべ292名	9名
登別中	1年～3年	50回実施 のべ494名参加(1回10名程度)	3名
西陵中	2年13名 3年8名	2年3回3年27回実施 2年のべ31名3年のべ162名	2名

成果と課題　・学びの成果が確認できる場面が増えている。特に6年生は2年目の参加が多く、落ち着いて取り組む雰囲気が生まれた。

・同じ問題を市内のすべての小学校で扱ったことから、市の児童の実態状況や課題、各学校の傾向を把握できたたので、問題の改善に反映できた。

・指導計画作成や指導方法等、学習指導における小中一貫のポイントとなる点も把握できた。

・課題は、個々の児童生徒の理解度の一層の把握と学校への情報提供の充実、小学校でのつまずきが中学校でどう影響するのか、内容の把握と共有。

○英語教育

・平成26年度に作成した「登別市小中学校英語教育推進プログラム」を30年3月に改訂し、学習指導要領移行期間に向けた指導体制整備を図った。小学校ではコミュニケーション能力の素地を養うこと、中学校ではコミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいにおき、9年間を見通した学習を進めるよう支援した。

ＡＬＴの派遣（4名配置）～数多くネイティブな英語に触れる機会の創出→各学校に週1回以上派遣

小学校の外国語活動(全学年)、中学校の英語の授業で教員とのＴＴ形態による指導を行った。

小学校1～4年では、生活科や総合的な学習の時間等で年10時間程度国際理解教育を行った。

小学校への年間派遣回数～372回（2名分）　中学校への年間派遣回数～372回（2名分）

・地域の特性を生かした取組

登別地区(登別小～地獄まつりで外国人観光客に自作の観光案内を配布・登別中～熊舞を英語で紹介し披露)

評　　価	全国調査においては、中学校国語Ａでは全国の平均正答率と同程度だったが、他教科では下回る結果となった。生活習慣においては、小学校では１時間以上学習する割合が全国と同程度に改善されたが、中学校では下回っている。各校の取組に対する支援のさらなる充実を図る必要がある。 英語教育においては、新学習指導要領移行期に先立ち推進プログラムを改訂し、体制の整備を進めた。
今後の方向性	全国調査での課題を解決するため、教育課程課題検討委員会を中心とした市内共通で取り組む指導内容の徹底、支援が必要な児童・生徒に効果的な放課後学習の運営、中学校区内での9年間の学びを見通した家庭への継続的な働きかけなどを行い、市全体の教育環境の一層の充実を図る。 英語教育については、移行期の中で学ぶ子どもたちの学習環境を第一に考え、体制の整備と教員の指導力向上を図る。

項　　目	**3　読書活動**
点検内容	学校図書館への司書の配置により、貸出冊数が増加するなど大きな成果を上げているので、引き続き学校図書館の充実に努め、児童生徒が意欲的に読書活動に取り組むことができるよう促す。

取組状況

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝10分	読み聞かせ・貸出返却	図書委員の読み聞かせ
幌西小	毎朝10分	読み聞かせ・飾付・貸出・本の整理	図書だよりの発行
鷲別小	月～水20分	読み聞かせ 環境整備 新刊紹介 図書便り発行	小学生新聞を授業活用
登別小	火金15分	読み聞かせ	図書館だよりの発行
富岸小	火曜10分	月２回程度、朝の読み聞かせ	図書室環境整備
幌東小	毎朝10分	読み聞かせ・お話会・飾り付け	読書の木・目標設定
若草小	月金10分	読み聞かせ・環境整備・新刊紹介	図書委員読み聞かせ 読書の木
青葉小	月木10分	飾付・環境整備・ＡＬＴ及び教員による読み聞かせ	異学年読書交流他
幌別中	毎朝10分	読み聞かせ・貸出返却・環境整備・新刊紹介	委員会補助
鷲別中	毎朝10分	読み聞かせ・図書紹介(週火木2回) ３年生への読み聞かせ（３月）	前後期に分けて本購入 ビブリオトークの実施
登別中	毎朝10分	活動なし	委員会による運営
西陵中	毎朝10分	活動なし	学級文庫入れ替え
緑陽中	毎朝10分	週3回環境整備・読書啓発	生徒による読み聞かせ

○学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

1 ねらい　読書に関する指導や学校図書館整備に関する活動などについて情報交換や交流を図り、市内各校の学校図書の充実及び児童･生徒の学校図書館活用の活性化を図る。

2 日　時　平成29年6月30日（金）　15:30～17:00

3 参　加　小・中学校教諭7名　司書教諭4名　学校司書4名　学校図書ボランティア・図書館15名

4 内　容　連絡会議　①情報提供　・市立小中学校図書室の蔵書と利用状況について

・図書館の小学校学級文庫と特別支援学級への貸出について

②グループ別交流　・各校取組　・現在の課題、改善が必要なこと

・図書館との連携や図書館の有効活用

○登別市学校司書連絡会議～年７回実施

1 ねらい　市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

2 内　容　活動内容の交流・図書館だよりなどの意見交換・本の整理に関する情報交換・英語の本の読み聞かせに関する情報交換　その他

○長期休業中の学校図書館の開放～小学校のみ　（　　）は28年度

読書活動推進の一環で実施。休業中の日時を設定し児童に対し学校司書による貸し出し業務を行う。

利用状況～夏休み213名（125名）貸出冊数225冊（180冊）　冬休み144名（107名）貸出冊数162冊（150冊）

○小学校への団体貸出

「わくわく文庫」を除籍処理し、市内小学校全8校に１学年２コンテナ委譲。３学級以上は追加。

実績：85学級に貸し出し。（実施率100％）　提供冊数3,465冊

○小・中学生の読書感想文・感想画コンクール

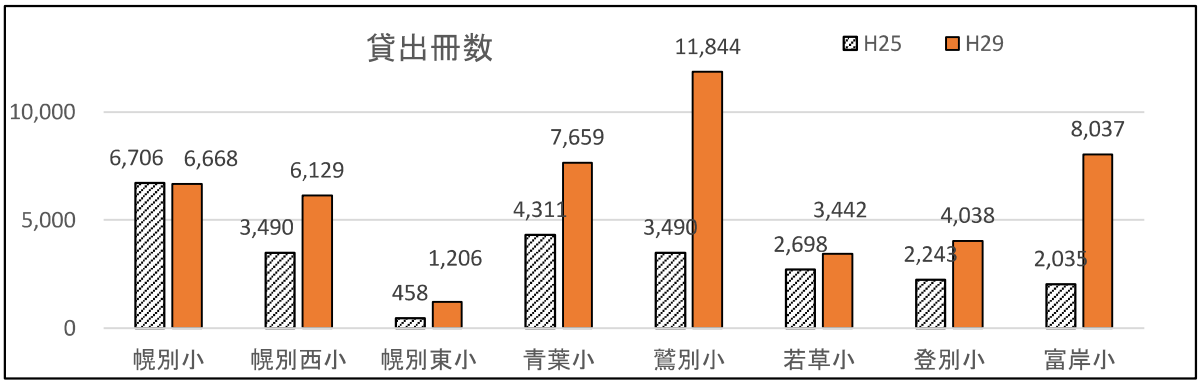
応募件数：感想文449作品（入選65作品）・感想画78作品（入選10作品）

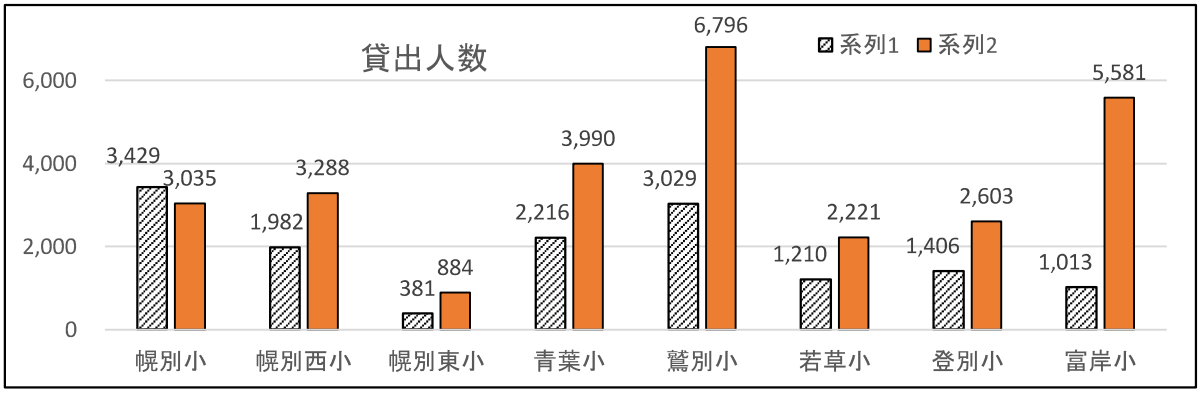
○学校図書館担当職員（学校司書）の小学校への配置

図書館司書等の有資格者を段階的に2校に1人の割合で配置した。

・H25～26年度　2人を4校に配置（幌別西小、青葉小、鷲別小、若草小）

・H27年度以降　4人を8校に配置（上記に加え、登別小、幌別東小、幌別小、富岸小）





評　　価	学校司書の配置は、4小学校では5年目、他の4校では3年目となった。学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議や学校司書連絡会議を通して、有効な学校図書館整備が図られた。結果、多くの学校で貸出冊数や貸出人数が伸びた。また、今年度も長期休業中の学校図書館利用の機会を設け、子どもたちの本への関心を高めることができた。
今後の方向性	引き続き学校司書や学校図書館担当者を対象にした研修会などを通して専門的な知識を高めていく。小学校での成果を活かして、中学校での取組の充実を図っていく。

項　　目	**4　教職員の指導力の向上**
点検内容	北海道教育委員会が指定する学校力向上に関する総合実践事業の成果が、研究会等を通して市内各学校に還元されるよう促すとともに、登別市教育実践奨励校の指定や登別市教育研究会の活動を奨励し、指導方法の工夫や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められるよう支援する。

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域･教科	研　究　主　題	年度
幌別小	学習指導	確かな学力を育てる授業の創造　～教師の授業力向上を目指して～ 公開研究会 2/2	28･29
幌東小	学習指導	子どもたちに確かな学びを積み重ねることのできる学習指導の工夫 ～算数科の基礎基本を確実に定着させる授業の改善～　公開研究会11/17	28･29
登別小	学習指導	意欲的に学ぶ子どもの育成　～算数科の授業を通して～ 公開研究会11/22	28･29
緑陽中	道徳教育	道徳的実践力をはぐくむ生徒の育成　　公開研究会10/27 ～「気づく」「深める」「目覚める」授業過程を通して～	28･29
幌西小	学習指導	一人一人の子どもが生き生きと表現しようとする学習過程の研究 ～国語科「書くこと」における指導を通じて～	29･30
青葉小	学習指導	自分の考えをもち、ともに学び合う子の育成 ～言葉を大切にし、学びを高める国語の授業を通して～	29･30
鷲別小	学習指導	共に考えることが楽しい学習を目指して ～子どもの実態に合わせた算数の授業づくりについて・日常生活に役立つ算数の授業を通して～	29･30
若草小	道徳指導	自ら行動し、よりよく生きようとする子どもの育成 ～道徳的な実践意欲を喚起させる授業の研究を通じて～	29･30
幌別中	学習指導	思考力・判断力・表現力等を高める授業の工夫 ～主体的に学ぶ活動を通じて～	29･30
登別中	道徳教育	豊かな心を持ち、主体的・自律的に生きる生徒の育成 ～道徳教育の充実を通じて～	29･30

○地域連携研修事業

主体校：幌別小　連携校：幌別西小・幌別東小をはじめとする管内全小中学校

主体校が取り組んだ研修・研究課題

日常の授業改善と教師の授業力向上という２つの課題を、校内研修と個人研修の充実を通して解決していった。研究主題を「確かな学力を育てる授業の創造～教師の授業力向上を目指して～」とし国語、道徳を窓口として、主体的、協働的な学びの確立を目指した。

また、学校力向上に関する総合実践事業の取組と連動し、人材育成をテーマに「メンター型人材育成システム」の研究を継続し、外部講師として北海道教育大学姫野完治准教授を招聘し、幌別小のメンター研修を参観後、取組に対する助言指導をいただいた。

視察研修　10/27　苫小牧市立拓進小学校公開研究会参加（中山校長・荒木教諭）
11/17　室蘭市立みなと小学校公開研究会参加（中山校長・荒木教諭）
12/1　網走市立網走小学校公開研究会参加（太田教諭）
12/12　札幌市立北九条小学校公開研究会参加（小枝教諭・荒木教諭）
2/9-10 学習公開・初等教育研修会（筑波大学附属小学校）（田坂教諭・菊地教諭）

連携校への還元

2/2　登別市立幌別小学校学校公開　教育講演会（場所：幌別小　参加者：管内外教諭90名）
講演：教育効果の高い「チームとしての学校づくり」
講師：北海道教育大学教職大学院教授　水上　丈実氏
6/22　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（国語　4年生　6年生）
7/29　中堅教諭資質向上研修にて教頭がミドルリーダー育成に関わり指導助言
12/7　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（国語　1年生　6年生）
1/10　中堅教諭資質向上研修にて研修部長が算数科授業改善に関わり指導助言

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別小　近隣実践校～幌西小･幌東小

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果
学校マネジメント	○ＳＭＡＲＴに基づく目標を設定し達成度の基準を明確化･可視化した取組の推進 ①知・徳・体のバランスのとれた教育活動の改善・充実 ②学校力向上に関する総合実践事業の推進 ・人材育成　・チーム学校づくり ③学校経営方針の明示 ・学校経営のグランドデザインの作成 ・経営方針の周知（ＰＴＡ総会・学校運営協議会・学校だより等） ④学校経営方針と学年学級経営案とのリンク・重点化 ⑤ＧＰＡＣサイクルを活用した学校改善サイクルの迅速化	○学校経営方針を学年・学級経営案の重点とリンクさせ、日常的に意識した取組を行うとともに、学期ごとの交流会で状況を確認し改善策を明らかにすることができた。 ○各行事の直後にスタンドミーティングを行い、速やかに課題を確認し、改善方策の立案・実行につなげた。 ○ミドル･ベテラン教員層が、初任段階教員としっかり関わりをもち、人材育成を基にしたチーム学校の推進が図られた。	○保護者アンケート結果 ※上位２段階の評価 授業:94% あいさつ:82% 人間関係:91% 教育活動:96% ○職員アンケート結果 ※上位２段階の評価 人材育成:93% 日常業務:76% （環境整備達成率）

人材育成	○ＯＪＴを基盤としたメンターチームの構成、メンター研修の推進	○校内でのメンターチームの理解が進み、授業づくりや学級経営に深く関わるミドル・ベテラン教員層、教えを請う初任段階教員の姿が日常化し、個々の力量向上につながった。	○計画通り実施し、初任段階教員の困り感に寄り添うことができた。また、2校目5年目経験の教員の役割意識醸成のため、メンター研修に参画させたことで意識の向上につながった。
	○管理職による毎日の授業参観と指導	○管理職による授業参観を毎日複数回行い、事後指導により、教員個々の学級経営や授業改善につながった。特に、初任段階教員個々の力量形成・向上につなげられた。	○管理職が日常的・継続的に個別指導を行うことで、経験段階に応じ授業力が向上している。 ○保護者アンケート「授業が分かりやすい」の項目上位2段階の評価94%。
	○校長との授業研究・協議（校長が学級担任全員の授業を参観。学級担任は、学習指導案を作成。授業後にその授業について指導・助言）	○初任段階教員８学級で２月中～下旬に実施。授業を通し、事後校長室で個別に指導を受け、授業改善や教師力向上につながった。	○全ての授業者について１時間の授業参観と放課後校長と協議、指導を行った。
	○年代別、学年・ブロック別等によるテーマ別研修の実施	○毎月最低１回の全体研修、２～３回の国語や道徳の授業づくりに関するチーム研修、学年研修で教材研究を行い、個々の授業づくりに係る力量が向上した。 ○全職員を対象に、多岐に渡るテーマ別研修を短時間で実施し、個々のスキルアップにつながった。 ○若手主体のメンター研修が学びの場として定着し、計画立案から自主的に進めることができた。	○年間で、校内全体研修14回(H28比+1回)、学年ブロックによるチーム研修23回実施。またテーマ別研修9回、学年研修はほぼ毎週１回行った。
教育課程・指導方法等	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの推進及びチャレンジテストや全国学力・学習状況調査の問題への取組	○本調査では、複数の教師で評価基準を確認し即日採点。教務部の分析のもと、学習状況と学力の実態や傾向を全職員に提示し補充指導が行えるようにした。 ○学習指導にかかわる全職員がチームで調査問題を解き、児童のつまずきを想定し分析した。職員間で共有し組織的な授業改善につなげることができた。	○それぞれ全国比 国語Ａ -3.8　国語Ｂ -0.5 算数Ａ -5.6　算数Ｂ -8.9 ○標準学力検査(2～5年) 国語算数ともに1～3年は全国平均以上かほぼ同等。4～5年は国語算数ともに全国平均を下回った。 ○単元テスト算数「知識理解」92%。国語「読むこと」「書くこと」は全国平均以上。算数「数学的な考え方」は、全国平均を下回った。
	○課題解決的な４段階の指導過程をベースとした指導方法の研究推進 ○教師一人一人の授業力を高める校内研修の充実（教師の授業力向上に特化した校内研修＝日常的な授業づくり及び実践的研修）	○日常の授業づくりが浸透し、年齢差や経験差を超えた学び合いが深まった。研修活動以外の時間にも授業改善について職員間の交流が日常化した。	○研究授業公開 各担任年間３回以上実施 ○校内研修 年間35時間以上実施 ○児童学習アンケート「よく分かる」「だいたい分かる」の上位２段階の評価は89%

	○子どもの実態に基づいたＴＴ指導の推進 ○指導重点単元の設定とその単元におけるＴＴ指導の推進及び習熟度別学習の実施	○TT 指導において、児童の実態に応じ重点単元を設定し併せて習熟度別学習の指導形態を積極的に取り入れた。児童の学習意欲の向上につながるとともに、理解力に課題のある児童には効果的であった。 ○学級担任とTT担当者が日常的に打合せを行い、児童一人一人の実態を共有し連携して指導にあたることができた。	○TT 指導時数 国語：704H 算数：399H 習熟度 355H 理科：555H ○保護者アンケート「TTの授業が子ども学力向上へ」上位2段階の評価は97%。
地域・家庭との連携	○地域代表者、ＰＴＡ役員、教員による運営協議会を組織 ○学校運営協議会（コミュニティースクール）による学校課題の共有化と支援体制の構築	○学校運営協議会の中で学校経営方針の承認、併せて学校概要の説明や授業参観を設定した。校内の様子を共有し、よりよい学校運営を目指すため幅広い視点から意見いただくことができた。 ○交通安全ボランティアの毎日の安全街頭指導等に支えられ、日常的な声掛けも行ったことで児童の安全意識が高まった。	○計画通りに実施。各回も授業参観後に、地域の中での児童の様子や学校運営にかかわる貴重な意見をいただいた。 さらに、地域と学校が連携し社会に開かれた学校として取り組むべきことを確認することができた。

評　　価	学校力向上に関する総合実践事業においては、特に人材育成においてメンター研修への理解が進み、ミドル・ベテラン教員層と新任段階教員との交流が日常化し、個々の力量向上につながった。その成果を地域連携研修事業や研究授業の公開等を通して市内各学校に還元した。長年の取り組みが評価され、幌別小学校が文部科学大臣表彰を受賞した。 登別市教育実践奨励校については、10校が指定を受け、それぞれの実態に即した研究主題のもと、7校が学習指導、3校が道徳指導をテーマに取り組んだ。その成果を4校が広く公開し、研究の質を高め合うことができた。
今後の方向性	多様化する教育課題に適切に対応するため、引き続き教育実践研究奨励校に小中学校を指定し、各学校の研究や研修活動を支援する。「学校力向上に関する総合実践事業」や「地域連携研修事業」等の成果が市内各学校に一層還元されるよう促す。また、新学習指導要領移行期間に入るので、「主体的・対話的で深い学びの実現」がなされるよう、各学校での研修機会のさらなる充実に努める。

項　　目	**5　豊かな心の育成**
点検内容	自然体験や社会体験、ボランティアの活動を奨励し、他人を思いやる心や自律心、規範意識等の醸成に努める。また道徳教育については平成30年度から「特別な教科　道徳」として一層の充実が求められているので、各学校における適切な取組が推進されるよう、指導資料の提供や研修機会の充実に努める。
取組状況 ○自然体験や社会体験、ボランティア活動等、豊かな心を育む体験活動 （◇学校支援地域本部事業によるものや、外部指導者を招いての教室など、各項目に記載の内容と重複するものを含む）	

学校名	体　　験　　内　　容
幌別小	通年　全学年による学級園を中心とした栽培活動 3年生による花壇への花の移植、草取り 通年　児童会活動として、リングプル・牛乳パックのリサイクル活動 4/13　交通安全青空教室(交通指導員の協力) 4/20　安全指導集会(講師：室蘭警察署員) 5～12月　幌中地区ふるさとふれあい農園活動 5/28　田植え 10/7稲刈り 12/16収穫祭 7/5　2年生 世代間交流　昔の遊び体験　16名の地域の方が協力 8/24　ふぉれすと出前講座(5年) 8/26　スマホ･ケータイ安全教室(5･6年)　講師：携帯電話会社担当者 9/30　乗馬体験(学校支援地域本部事業) 10/3　アイヌ文化学習 4年（アイヌ文化活動アドバイザー協力) 10/6　3年社会科見学（ドーピー建設工業見学) 10/21 どさんこ子どもサミット代表児童発表 11/10 邦楽鑑賞会 6年（登別三曲協会協力) 11/17 4年総合　見学学習（白老アイヌ民族博物館) 11月　5年総合(福祉の学習) 12/8　5年総合　福祉体験活動(しんた21での施設見学・車いす体験) 12/14 非行防止教室 5・6年(いじめ･ＳＮＳ･万引き･飲酒･喫煙･危険薬物)講師：室蘭警察署員 12/20 5年総合 認知症キッズサポーター養成講座 2/6　スキー学習（5・6年) 2/9　6年卒業制作（健千窯の協力による陶芸)
幌西小	4/12　縄文出前講座 6年生対象 4/20　「交通安全教室」（全学年) 5/17　「校外班集会・集団下校」（全学年) 6/14　ふれあい清掃 児童会によるリングプルの回収 7/11　世代間交流 昔の遊び講座（2年) 7/14　邦楽鑑賞会 三曲協会による琴や尺八演奏指導（6年) 9/7　「栄養教諭食育授業」（4年) 9/20　ふぉれすと鉱山学習（3年) 10/26 メグミルク食育プログラム（4年) 10/28 非行防止教室（6年)　ケータイ安全教室（5年) 11/7　「栄養教諭食育授業」（2年) 11/16 「薬物乱用防止講座」（6年) 11/13.15.22 「福祉の学習（総合的な学習）」（5年) 12/3　第13回障害者週間記念事業で体験発表（5年) 12/5　心に響く道徳講師派遣事業活用 野球解説者 稲田直人氏「夢に向かって」（1～6年) 1/25 「認知症サポーターキッズ養成講座」（6年) 2/19　「スキー学習」（5・6年)
鷲別小	4/14　縄文出前講座（6年) 7/6　世代間交流（1年)

		7/20　食育指導（4年） 9/8　ボランティア清掃（下校時の地域のゴミ拾い）児童会が企画（全学年） 9/26　邦楽鑑賞会（6年） 9/26　ふぉれすと鉱山自然体験学習（2年） 9/28　10/23 11/29 出前福祉講座（5年） 10/3　施設見学　アイヌ博物館・クリンクルセンター（4年） 10/11 幼保小交流（学芸会に鷲別保育所とリリー文化幼稚園を招待） 10/28 食育指導（2年） 12/2　携帯電話・インターネット安全教室（5・6年） 12/7　幼保小交流（鷲別保育所年長児を1年の生活科学習に招待） 12/20 租税教室（6年） 2/2　郷土資料館での学習（3年） 【通年】小動物の飼育や学級園の栽培活動
	登別小	ベルマーク・リングプル回収（全学年）2/15　2/16ベル・リン祭り（全学年） 学級園等での栽培活動（全学年） 5/9　交通安全青空教室(1.2.3.5年)　登別市交通安全協会 5/10　ふるさと農園でジャガイモの植え付け（2年）地域ボランティア参加 5/13　サケの稚魚放流（登別さけ・ます孵化場）地域支援本部事業 5/22　人権の花運動贈呈式・花の移植（2年） 6/21～7/28　小動物（ウサギ）とのふれあい飼育活動（主に1.2年） 8/29　認知症キッズサポーター養成講座（5年） 8/26　ふるさと農園収穫祭（2年）地域ボランティア参加 8/26　ＯＭＢ地域行事参加（5.6年）　地獄まつり 9/14　福祉体験学習（4年）登別市社会福祉協議会 9/25　登別中金管演奏会参加（1～5年） 9/25　文化芸術巡回公演（6年） 10/14 サケの採卵体験（登別さけ・ますふ化場）地域支援本部事業 10/21 地域行事参加（3年）　登別地区チャリティー市民演芸会 11/18 ものづくり体験教室（モザイクアート教室）地域支援本部事業 12/8　人権教室（4年）　人権の花運動感謝状贈呈式（2年） 12/16 ＯＭＢ定期演奏会　5・6年　保護者参観 1/31　豆まき集会～いじめ撲滅や交通安全に対する標語作成（全学年） 2/5　世代間交流（1年）　地域ボランティア参加 2/26　福祉体験学習（3年）　登別市社会福祉協議会 2/27　携帯スマホ安全教室（4～6年）講師：ＮＴＴドコモ広報担当 2/27　担任よる防犯教室（1～3年）不審者、不審電話について
	富岸小	5/8～13，10/3～6　「ケータイ・スマホ３つのルール」強調ウィーク 5/10　とどっく交通安全教室 5/13　命を守る学習 防犯教室 集団下校 春～秋 花壇や学年園、生活科での栽培活動　ふれあい農園活動　2年生・特別支援学級 通年 玄関ホール・各教室での飼育活動 6.7.11.12月 児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動

	6/27　世代間交流 1年生　昔の遊び講座　地域の方33名参加 7/8　富岸川遊び　ボランティアレンジャー河上氏・キウシトの会・富岸町内会協力 7/11　ENEOSわくわく環境教室 7/12,9/1,10/26 キウシト湿原学習 3年生 年2回実施 湿原観察や外来植物の駆除 7/18, 8/21 栄養教諭食育授業6年・2年 8/30　芸術鑑賞 9/27　クリンクルセンターとアイヌ民族博物館見学 4年生 通年　亀田公園での自然体験活動 通年　牛乳パックリサイクル 10/24 認知症サポーター講座　4年 11月　リングプル回収月間（通年でのリングプル回収は終了） 11/18 PTA祭り 11/30 ネットトラブル講習会 12/19 がん講座　6年　日鋼記念病院協力 1/20　親子もちつき大会・緑中吹奏楽部演奏鑑賞・和太鼓ZINKA演奏鑑賞 1/29・2/20　スキー学習6・5年 2/9　邦楽鑑賞会
幌東小	児童会によるリングプルの回収 児童会による「いじめをなくすための取組」（各委員会1～2回実施） 学級園を中心に栽培活動と学級花壇のお世話（5月～10月） ふれあい農園 5/28田植え 10/2稲刈り 12/9収穫祭 郷土芸能「幌別駒踊り」の継承（全校児童） 8月～11月に月1回練習　12月幌別地区市民演芸会参加（全校児童） 12/23文化大集会（キッズパワーフェスティバル参加（4～6年児童） 5/29　4年　総合的な学習の時間（福祉）～しんた21（点字体験） 6/14　マクドナルドによる防犯教室（1～3年児童） 6/23　1･2年世代間交流「ふれあい集会」（地域お年寄りとの交流） 7/24　校外班による校区のクリーン作戦（清掃活動） 9/21　3年 ドーピー建設工業やカント・レラ、地獄谷見学（温泉入浴体験に合わせて） 10/28　5年生認知症サポーター授業（土曜授業） 11/3　鉄南地区文化祭参加「東小マーチ」披露・全児童の作品展示
若草小	通年　児童会によるリングプル回収、牛乳パックリサイクル 通年　学級・学年の小動物・昆虫等の飼育を廊下ですることにより他の学年も触れ合える場としている 通年　児童会による「読書の木」の活動において、「読書の木」を職員室前に掲載することにより読書への意欲喚起を図る 2学期　児童会による「友達をたくさんつくるには」の活動～各自が思いや考えなどを書いた紙を貼り、掲示する（いじめ防止・豊かな心の育成） 5/9　自動車学校での交通安全の体験学習（3・5年）・5/10 4・6年生　・5/11 1・2年生 5/17　「町会下校指導：出会いのつどい」　月2回程度1・2年生の下校を引率してくれる地域の方々とのふれあいの場（3/7 「感謝のつどい」実施） 5/29　「ふれあい農園」（1・2年生）地域の方々とジャガイモ苗植え 9/22収穫　10/28収穫祭 7/3　「世代間交流」（2年生）　昔遊びの体験・給食での交流 7/6　マクドナルドによる「食育出前授業」（1・2年生） 7/12　「親子で本を借りよう」（1年生）　初めて夏休みの本の貸し出しを体験する1年生に親

		子の触れ合いと読書への意欲を喚起する 8/22　ふぉれすと「出前講座」（5年生） 9/12　「誕生学」講座（5年生）　いのちなどについて考える出前講座 9/23　「ＣＳ主催　ソフトボール大会」　地域の方々との触れ合いの場 10/21　「ふれあい活動昔あそび」　地域教育協議会主催 10/24　「アイヌ民族博物館、クリンクルセンターでの学習」（4年生） 「栄養教諭による食育指導」（3年生） 11/3　町内会文化展　5会場(若草・美園・美園南・旭が丘・鷲別地区)に児童の作品出展 11/9　「カルビーによる食育出前授業」（4年生） 11/21　「病院栄養士よる食育指導」（6年生） 11/22・11/24「栄養教諭による食育指導」（1・5年生） 11/25　「ふれあい活動もちつき」　地域教育協議会主催 11/28・12/6・12/15「福祉出前講座」（4年生）　車いす・点字の体験、視覚障害者の生活体 1/19　「邦楽鑑賞会」（6年生）　三曲協会による琴や尺八演奏指導 1/20　「冬と遊ぼう」（ＰＴＡ行事）　冬の遊びを体験する
	青葉小	牛乳パックやリングプルの回収・地域の方を講師に招いてのクラブ活動 4/26　交通安全教室　全学年（交通指導員の協力） 5/9.10 ニジマス釣り5年 青葉スケートリンク実行委員会や地域の方 5/13　ケータイ・スマホ教室　4～6年生 5/16　キウシト湿原の会の方による出前授業　4年生 ふれあい農園 5/12 2年生種イモ植え 9/1収穫祭（「畑の先生」招いて感想発表） 6/14　札響コンサート　5～6年 8/25,11/26 キウシト湿原での自然体験学習　4年生 10/6　2年生見学体験学習（バス乗車　図書館・駅） 10/25　2年生見学体験学習（バス乗車　マリンパーク） 11/14　登別の食産業　3年生　酪農館・望月製麺・道南食品での見学と体験学習 9/13　世代間交流 1年生 昔の遊び体験後、地域の方と給食交流 9/5　芸術鑑賞会 音楽鑑賞会 たたら製鉄　5年生　室蘭・登別たたらの会指導 10/30出前授業　11/9製鉄体験(火伏せの儀式や鉋出し)　2/13鉄の精錬体験 12/1　クラブ感謝の会　4年生以上　講師の方に代表から感謝の手紙贈呈 1/29　福祉学習　6年生（車いす体験、しんた２１利用者とのふれあい） 1/30　4年 虎杖浜水産工場たらこ詰め体験 アイヌ民族資料館や仙台藩白老元陣屋資料館見学 2/2　陶芸指導　6年生 2/7　視覚障害者による出前授業　6年生 2/16　認知症サポート講座 3/9　邦楽鑑賞会　6年生
	幌別中	4/28　携帯スマホ安全教室（1年） 5/14　登別こいのぼりマラソン手伝い～演奏、給水、タグ受け取り ふれあい農園 5/28田植え 10/7稲刈り 12/9収穫祭 51名参加 7/5　喫煙防止講座　室蘭警察署 7/5.6 救命救急講座２年生　登別消防署 8/26　介護付有料老人ホーム セ・ジュネス祭（ボランティア部手伝い） 9/23　地域との合同避難訓練 9/29　学校祭行灯行列　社会を明るくする運動

		10/2　吹奏楽部演奏会（幌別東小、幌別小） 10/18　2年職業体験（セ・ジュネスでの入所者との交流、三愛病院での社会体験） 10/22　吹奏楽ふれあコンサート（ほくでん室蘭） 10/23　心に響く道徳教育　講師　牧谷宇佐美 11/11　命の大切さを学ぶ教室　講師　真島勝彦氏 12/16　3年茶道体験:緑ヶ丘町内会女性部茶道サークルが協力 2年認知症サポーター養成講座 12/20　薬物乱用防止講座　講師：室蘭警察署員 12/27　もちつきボランティア　セ・ジュネスボランティア局訪問 1/22.29.2/5　非行防止教室（昼の放送にて）室蘭警察署員 2/4　地域教育協議会音楽を楽しむ会中止（集団感冒）
	鷲別中	通年　生徒会によるペットボトルキャップ、書き損じはがきの回収→海星学院に届けワクチン支援などに協力　全校で不要品を出品、学校祭バザーで販売しダルニー奨学金を捻出 4/13　3年による通学路清掃 4/16　ボランティア部による地域清掃活動 5/28　花壇の土おこし 5/29　生徒会による生活向上集会 生活向上週間を事前設定 各委員会の取組実施 6/3　花壇の花苗植え 7/24　携帯安全教室（ＮＴＴ） 9/29　1・2年による海浜清掃 10/4　「命の大切さを学ぶ教室」実施（交通死亡事故被害者遺族による講演） 12/5　「いのちのいろえんぴつ」の朗読劇（チームいちばん星）による「命の授業」実施 1年 6/23　郷土資料館長他２名による講演（登別市の歴史） 7/5　鷲別・若草地域探索（事業所訪問） 2年 10/19 市観光振興グループによる講演 10/24 温泉の各施設で職業体験（観光体験学習） 3年 10/24～26 3年保育実習（鷲別保育所） 11/24　誕生学講話（性教育） ギター・マンドリン演奏 7/31特養わかくさ 11/3鷲別地区文化祭 11/25中学校区もちつき大会
	登別中	4/14　携帯・スマホ安全教室（KDDI） 6/6　1年 洞爺湖有珠山ジオパークでの見学学習 7/8　校下の清掃奉仕活動（町内クリーン作戦）による地域の環境美化 地獄まつりオリエンテーション　熊舞保存会による指導 7/21　思春期教室（性教育講座）妊婦体験 8/25　ＪＲ登別駅で熊舞披露（外国人観光客向けに英語で紹介） 8/26　地獄まつり参加　鬼みこし運行、熊舞披露、吹奏楽演奏実施　外国人観光客に向けて英語や中国語で紹介 9/28　3年　幼児とのふれあい体験（コロポックル） 10/18.19 2年 職場体験 校区の事業所中心に2日間実施 10/30　1年 職業調べ　藤崎わさび園　藤崎氏による講話 11/11　土曜授業　1年：命の授業（教頭）　2年：認知症キッズサポーター養成講座（地域包括支援センター愛桜氏）　3年：薬物乱用防止教室（辻弘之氏　登別地区保護司会） 全校：熊舞引継ぎ式（地域公開）

	12/23　文化大集会への参加（2年生　熊舞） 3/19　お茶の間会議 地域の方と1年生がまちづくりについて意見交換
西陵中	7/13　いじめ撲滅集会（生徒会主催） 7/22　校区内清掃活動→雨天のため中止 10/20 海星学院生を招いての震災ボランティア報告会 10/26 2年生職場体験～15事業所 10/27 1年生職場訪問～新日鉄住金や自衛隊幌別駐屯所 11/27 2年生思春期教室～誕生学講座　講師：公益財団法人たん学協会認定講師 12/14 2年生認知症サポーター養成講座 【通年】生徒会による書き損じはがきやペットボトルキャップ、リングプルの回収
緑陽中	ボランティア部による富岸子育てひろばでの幼児とのふれあい活動（毎週土曜日） 生徒会によるリングプルの回収　年2回委員会活動強化週間設定 5/14　修学旅行における白河市でのファームステイ（農業体験） 6/7　生徒会中心に「いじめ０運動集会」寸劇やいじめ撲滅宣言実施 7/7　1年自然体験学習（ふぉれすと鉱山） 7/10　生徒会校区ゴミ拾い 7/10～14・11/27～12/1　生活改善週間設定 10/10 2年生思春期教室 10/24・26・31 3先生118名保育実習 11/16 2年生職業体験 1/19　2年生認知症サポーター養成講座 3/22　仲良しコミュニケーション月間集会

・「生命尊重･思いやりの心を育てる人権教室」
　6/27幌東小2・4年　9/20青葉小5年　11/24幌西小2・4年　11/29富岸小4年　12/8登別小4年　12/18若草小4年
・人権作文コンテスト　奨励賞　西陵中1名　幌別中1名

○「特別な教科　道徳」の実施に向けての取組
　11/15 第2回教育課程課題検討委員会において、各学校の取組状況の交流や、通知表への記載の仕方・カリキュラムの作成・評価についての意見交換を行った。その結果を校長会とまとめ、各校に還元した。道徳教育推進教師中心の指導体制の充実や、「考え議論する」授業への改善の重要性を確認した。

評　　価	豊かな心を育み体験活動については、各学校において、学校支援地域本部事業や各種団体、地域事業所などの支援のもと、実体験を重視した取組がなされた。 「特別な教科　道徳」の実施に向けては、意見交換をもとに学習指導要領移行に向けて共通理解を進め、各校の取組の充実を図った。
今後の方向性	今後も多様な体験活動に取り組む関係団体や地域ボランティアの方々との連携を図りながら、豊かな心の育成に努める。 また学校では「特別の教科　道徳」を円滑に推進できるよう環境整備に努める。

項　　目	6　体力向上
点検内容	引き続き１校１実践や新体力テストの活用など、学校の取組を促すとともに、体育コーディネーターの派遣事業を実施する。食育では子どもたちが食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために、引き続き栄養教諭を中心に教育活動全体を通して、食に関する指導を充実していく。

取組状況

○平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析（実施時期：平成29年6～7月）

小学校　5年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	体力合計(点)
全国	529,685	138.9	34.1	16.5	19.9	33.2	42.0	52.2	9.4	151.7	22.5	54.2
北海道	13,452	139.4	35.6	17.4	19.7	32.9	42.6	49.4	9.6	152.1	23.2	54.0
H29登別	227	139.7	35.7	16.7	21.5	36.3	43.2	53.9	9.7	153.4	23.5	55.2
H28登別	189	138.9	34.6	16.2	20.3	40.4	41.6	50.0	9.6	154.7	21.7	54.8
H27登別	200	138.7	35.0	15.9	20.2	37.3	43.8	52.3	9.7	145.2	22.0	53.8

小学校　5年女子

全国	509.374	140.1	34.0	16.1	18.8	37.4	40.1	41.6	9.6	145.5	13.9	55.7
北海道	12.800	140.8	35.2	17.0	18.3	37.1	40.5	38.6	9.8	145.6	14.5	55.2
H29登別	171	140.7	35.0	16.1	19.6	39.9	41.2	42.9	9.8	149.6	15.2	56.9
H28登別	169	140.5	35.1	16.3	18.3	42.9	40.0	37.8	9.7	148.5	14.6	56.2
H27登別	189	141.3	36.1	16.3	18.1	41.7	39.8	38.4	10.0	142.3	13.8	54.6

中学校　2年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ハンドボール投げ(m	体力合計(点)
全国	480,047	160.0	48.6	28.9	27.5	43.2	51.9	391.2	86.0	8.0	194.5	20.6	42.1
北海道	13,333	161.2	50.6	29.7	26.9	41.9	50.9	403.4	81.8	8.1	194.9	20.5	41.2
H29登別	223	161.2	50.2	29.1	26.6	44.0	49.3	410.2	85.8	8.2	191.1	19.7	40.6
H28登別	168	161.8	49.6	29.2	26.1	42.0	52.0	394.2	75.8	8.1	197.6	19.8	40.0
H27登別	190	161.1	50.6	29.1	26.8	39.6	52.0	409.4	82.6	8.2	194.9	19.0	39.6

中学校　2年女子

全国	461,175	154.9	46.7	23.8	23.7	45.9	46.8	287.4	59.1	8.8	168.6	13.0	50.0
北海道	13,104	155.3	47.5	23.6	21.9	44.1	45.0	305.4	51.8	9.0	164.1	12.4	46.6
H29登別	174	154.7	46.7	23.4	20.5	43.8	44.4	331.0	59.2	9.2	164.8	11.8	45.1
H28登別	165	155.4	47.2	22.6	19.4	45.2	44.2	303.6	44.0	9.3	156.7	11.7	42.8
H27登別	179	155.2	47.0	23.0	19.6	42.3	43.8	333.7	52.4	9.1	158.1	11.2	43.1

小学校男子～体力合計は、全国水準以上。４年連続全国水準を維持。種目別では、50m走除く全てで全国を上回った。総合評価Ａの割合は20%を超え、全国と比べて高い。

小学校女子～体力合計は、昨年に続いて全国水準以上となる。種目別では、50m走除く全てで全国平均を上回った。総合評価Aの割合は20%を超え、全国と比べて高い。

中学校男子～体力合計は、全国と比較して1.5点低い。シャトルランは昨年比10回増。握力や長座体前屈で全国を上回ったが、反復横跳び、持久走、50m走、立ち幅跳びは全国に至らず、俊敏性や持久力、走力に課題あり。

中学校女子～体力合計は、全国平均と比べ4.9点低いが、昨年に比べ2.3点改善。特にシャトルランは大幅に改善し、全国平均と同等になった。反面、上体起こしや持久走、50m走に課題あり。

○体力向上１校１実践内容

学校名	実　践　内　容
幌別小	長縄記録会（全学年 11月）全校で記録会実施 幌小っ子タイム（全学年6～7月・10～11月）学級ごとに目標を設定し長縄にチャレンジ なかよし元気っ子タイム（全学年6～1月）業間の集団遊びを通しての体力向上 短縄（全学年 通年）記録カードをもとに練習。7月にチャレンジタイム設定 体力テスト講習会（教職員 6月）保体部中心に体力テストの正しい実施方法確認
幌西小	長縄跳び大会（全学年 12/2）学級で休み時間に練習。連続跳躍回数を競う。 持久走記録会（全学年10/3）個人で休み時間に練習。個々の目標に応じた距離を走る。
鷲別小	マイペースランニング（全学年10月5～7日間）グラウンドにコース設定。走った周記録 なわとび記録会（全学年11月3週間）がんばりカードを活用して意欲化。
登別小	なわとび（全学年 通年）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 前期:3分間持久跳び　後期:長縄跳び　※どさんこ元気アップチャレンジ登録 長縄発表会（低：12/15　高：12/21）　３月ふれあいなわとび（中休み） すもう（全学年 5～9月）体育の時間に実施　夏・秋場所を設定する。 マラソン（全学年 7～9月）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 スキー（全学年 1～2月）裏山(主に1.2年使用)　スキー場(1.2年1回、他2回)
富岸小	なわとび道場（全学年　通年）毎朝のなわとび実施　　短縄大会（全学年　6月） マイペースマラソン（全学年　9月）　長縄大会（全学年　12月）
幌東小	どさんこ元気アップチャレンジ「２０mシャトルラン」全校児童エントリー どさんこ元気アップチャレンジ「短縄跳び」全校児童エントリー 全校児童「新体力テスト」の実施 校内体力づくりの実施～①タイムにチャレンジ　②ソフトボール投げ選手権 ③短縄跳び選手権　④長縄跳び選手権
若草小	なわとび　休み時間に「なわとびカード」の名人を目指して取り組む（5月～10月） 「短縄記録会」（9月）、長縄記録会（1月）の開催
青葉小	長縄跳び(全学年6～2月)学級ごとに取り組む。 9月・2月記録会実施　9月縄跳びミニ研修会
幌別中	長縄跳び（全学年 5～6月）陸上記録会に合わせた体力づくり　昼休みに時間設定
鷲別中	体育専門委員会によるドッジボール大会（後期）実施（各学年内のクラス対抗） 長縄跳び（全学年 12月）体育科で実施。制限時間内で跳んだ回数を学年内で競う ダンス（1・2年　2月）ヒップホップダンスを、講師を招いて実施する
登別中	導入5分間アップ(全学年・通年)授業導入時筋トレ、コーディネーショントレーニング実施 体力アップイベント(全学年)バスケットボールなど生徒による企画と実行 ダンス指導（全学年）インストラクターによる指導

西陵中	8/28 ダンス講座（全学年）…文化・スポーツ振興財団「ダンスレッスン派遣事業」 ダンス（全学年9月）学校祭でヒップホップダンスをクラス単位で発表(コンクール形式)
緑陽中	ダンス指導（1・2年生 3学期）インストラクターによる指導　長縄跳び（全学年）

○体育コーディネーターの活用による体育授業及び体力向上の支援(子ども健康・体力改善事業)

委託先　ＮＰＯ法人「おにスポ」市内全小学校にスポーツ指導員を１校あたり年間400時間以上派遣。

派遣内容　①「体育の授業」質向上支援～・柔軟性・俊敏性を養う動きを取り入れた準備運動の導入。②実技の手本を見せ、児童へ体の動かし方やコツ、練習のポイントのアドバイスを実施。③準備運動で、単位時間の中で行う運動に必要な筋肉を使う体操を導入。④体力向上を図る取組の支援～・おにごっこや球技を取り入れた遊びへの参加を積極的に児童に声かけすることで、運動への意欲の向上を図るとともに、運動不足の解消、持久力、瞬発力を高められるような取組を行った。

○栄養教諭による給食指導

・勤務校での指導状況

幌別小　1年　10/6 給食を楽しく食べよう　11/17 食べ物を大切にしてきちんと食べよう
2年　8/30 何でも食べよう元気に大きくなろう　10/20 はし使いの名人になろう
3年　12/11 すききらいをしないで食べよう　3/16 健康になる生活リズムを考えよう
4年　6/5 朝ごはんのよさ、働きを見直そう　12/15/22 バランスを考えて食べよう
5年　10/27 バランスを考えた食事をしよう　12/1 見直そう生活習慣
6年　7/21 朝ごはんパワーアップ大作戦　3/7 成長期の食事を考えよう

幌別東小　1年　6/16 給食を楽しく食べよう　2年　10/4 野菜と仲良しになろう
3年　9/12 食べ物の働きを知ろう　4年　2/14 元気が出る朝ごはんを考えよう
5年　7/21 おやつの食べ方を工夫しよう　6年　3/6　１日の食事について考えよう
※給食指導～毎日学級訪問　食育教室の充実～年間通して児童が学べる空間の確保

・派遣先での指導状況

幌西小　9/7 4年学級活動（食育指導）　11/7 2年学級活動（楽しい食事）
若草小　11/22 1年特別活動　給食を楽しく食べよう　11/24 5年特別活動（食品添加物について）
登別小　10/31 5年（栄養素の働きについて）　2年　給食の主な栄養素について
青葉小　11/15 2年学級活動（食育指導）　11/22 4年学級活動（食育指導）
鷲別小　5/24 3年（好き嫌いをしないで食べよう）　7/20 4年（丈夫な身体をつくろう）
富岸小　7/18 6年家庭科（副食の取り方・給食等）　8/21 2年学級活動（楽しい給食）

評　　価	各校の１校１実践や新体力テストの活用、スポーツ指導員の派遣事業により、小学校男子で4年連続、女子で2年連続全国水準を上回った。中学校は全国にとどかないものの、女子において改善が見られた。 食育では、栄養教諭を中心に食に関する指導を行い、子どもたちが食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けた。
今後の方向性	１校１実践の取組の推奨やスポーツ指導員の派遣事業を実施し、学校体育の充実と運動の習慣化が進められるよう支援する。 食育に関しては、栄養教諭を中心に食に対する正しい知識と望ましい食習慣が身に付くよう指導の充実に努める。

項　　目	7　特色ある教育活動
点検内容	児童生徒一人ひとりの個性を生かし、「生きる力」を育むため、引き続きスキー授業や温泉入浴体験、環境学習など、地域の教育資源を活用した各学校の取組を支援していく。

取組状況

○地域の自然や特性を生かした学校での取組支援

・「スキー授業」　　市内の小学校８校の児童、延べ929名が参加。
アンケート（登別小を除く7校）結果
児童：「楽しかった」85%「また滑りたい」84% 楽しかった理由「スキー場で滑ることができた」43%
保護者:「楽しいと感じている」93%「授業を継続したほうがよい」69%

・「温泉入浴体験」　370名参加　市内小学校全8校の3年生対象に実施。
幌別小49名～9/8ホテルゆもと登別（温泉街見学、カント・レラ、ボランティアガイド活用）
幌西小53名～9/14第一滝本館（ドーピー建設工業見学、ボランティアガイド活用）
幌東小6名～9/21花鐘亭はなや（ドーピー建設工業見学、カント・レラ、ボランティアガイド活用）
青葉小51名～9/26石水亭（足湯体験、ボランティアガイド活用）
鷲別小52名～9/29登別グランドホテル（カント・レラ活用）
若草小48名～9/1パークホテル雅亭（郷土資料館）
登別小30名～9/20登別万世閣（温泉街見学、ボランティアガイド活用）
富岸小81名～9/26ホテルまほろば（郷土資料館、ボランティアガイド活用）

・環境学習
各小中学校～ふれあい農園等で野菜などの栽培と収穫。花壇での栽培。
富岸小（3年生）、青葉小（4年生）～キウシト湿原で体験学習（夏と秋）湿原の散策や水辺の生き物の観察

○その他　租税教育

・租税教室～小学校全8校で出前授業実施　内容～税金の種類、暮らしと税との関連
講師：振興局職員(1校)、税理士(1校)、市職員(6校)

・税に関する標語（対象：小6児童）　市内全小学校より245点応募　室蘭税務署長賞など16名入選

・税についての作文（対象：中学生）　西陵中・緑陽中より21編応募　北海道納税貯蓄組合連合会会長賞や室蘭税務署長賞、登別市長賞など、3名が受賞

・税に関する絵はがきコンクール（対象：小6児童）　市内小学校2校・12点応募

・全道中学生の税をテーマとしたポスター（対象：中学生）鷲別中より11点応募　胆振総合振興局賞1名、胆振総合振興局奨励賞 鷲別中学校受賞

評　　価	地域の自然や特性を生かした学校での取組を継続して支援することができた。特にスキー授業は、全8校での実施を円滑に進めた。ふれあい農園や花壇などの栽培では、地域ボランティアに支えられて活動の充実を図ることができた。 その他、租税教育など、学校の実態に即して進めることができた。
今後の方向性	引き続き、地域の自然や特性を生かしたスキー授業や温泉入浴体験、環境学習などの取組を支援し、登別のよさを体感できる機会の充実に努める。地域の教育支援の一層の活用を促していきたい。

項　　目	8　幼保・小・中連携
点検内容	幼保・小・中連携協議会を中心に、各学校種における教育内容や指導方法などそれぞれの教育活動への理解を深めるとともに、教職員による引継ぎなどを通して、円滑な接続がなされるよう支援する。 小中一貫の取組については、義務教育9年間を連続した期間としてとらえ、指導の一貫性を図ることが重要なので、基本方針を策定するとともに、平成28年度にモデル校として西陵中学校区と登別中学校区が実践した成果を検証し、市内全中学校区で展開できるよう資料の提供や研修会の開催などに取り組む。

取組状況

○平成29年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

・日常の情報交流について

事　　案	発 信 元	内　　容
流行性疾病による学級閉鎖	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数
気象警報等による緊急対応	学教G･学校	・暴風雨雪警報・注意報発令時：市、学校区の対応
不審者情報・凶悪事件	社教G･学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学校	・年間行事予定・学芸会･運動会･卒入学式案内
学校だより	学校	・月１回作成　１部配布
教育ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧(掲示用)　10/28～11/11
教育委員会広報	学教G	・教育行政全般の活動報告

・指導者・子どもの交流について

幼保･小･中連携協議会	幼保小中	7/31 登別市幼保・小・中連携協議会 出席：幼稚園代表･保育所代表･校長会代表･教育委員会 内容：平成29年度の取組と今後の推進について
	幼保小	11/8 実務担当者会議 出席～幼稚園教諭4名 保育士4名 各小学校教諭8名 子育てG2名 教育委員会6名 就学前、就学後の実態や課題について情報交流・意見交換を実施。 3/27.28「幼･保･小」実務担当者会議(合同引き継ぎ会) 出席：白菊幼稚園4名　リリー文化幼稚園2名　コロポックルの森3名 カトリック幼稚園2名　室蘭の幼稚園他8園11名　市内保育所8名 市内小学校25名 個々における就学前の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後予想される課題について、情報や意見の交換を実施。
１日体験入学	小学校 登別中 幌別中 西陵中 緑陽中 鷲別中	1～2月 新1年生と現1年生の交流を生活科の授業体験などを通して実施 11/15　小6年生対象で体験授業と授業見学、吹奏楽鑑賞 11/24　小6年生対象で授業見学・部活動体験 2/5　　小6年生対象で体験授業とオリエンテーション実施 10/27　小6年生対象で授業参観と学校の概要説明 2/14.15 青葉小・富岸小で小6年生対象に出前授業実施 10/26　新入生体験入学　授業参観と学校の概要説明
交流活動	西陵中校区	7/11～14　10/17～20　小中合同挨拶運動(朝、本校生徒会と幌西児童会) 2/28 3/15 出前授業(西小で小6に体育・英語、卒業式合唱指導) 8/25 12/20 小中交流会（両校教員による授業参観と研究協議） 年4回定期テスト前、小中同時に家庭学習強化週間設定

			年間、授業参観や校内研修に合わせた相互の授業見学
		鷲別中校区	10/21 幼児児童生徒交流（昔遊び体験）
			11/25 幼児児童生徒交流(餅つき体験やマンドリン演奏鑑賞)
		幌別中	10/2　幌東小・幌別小での吹奏楽部の演奏　児童との交流
			2/7　幌東小・幌別小合同出前授業（英語・音楽　対象：6年生）
		鷲別小	10/11 鷲別保育所とリリー文化幼稚園児、学芸会観覧
		幌西小	9/21.28 登別明日生徒による英語学習サポート
		幌東小	運動会総練習時、幌東保育所の幼児と登別地獄囃子を舞踊
			10/13 学習発表会に東保育所幼児招待
			11/29 1年生生活科「秋の宝物ランド」東保育所幼児招待
		登別小	10/18,19　登別中生徒の職業体験受け入れ
			12/5　コロポックル年長　１、２年生活科に参加
		緑陽中	1/20　富岸小餅つき大会で吹奏楽部アトラクション演奏
		登別中	9/25　登別小での吹奏楽部の演奏
	幼小中合同避難訓練	登別地区	9/30 地震津波を想定した避難(登別市総合防災訓練参加)
	小中合同避難訓練	幌別中地区	9/23　幌東小･幌別中合同で津波対策避難訓練実施 小学生は中学生や地域の方に見守られながら避難所に向かう。東小児童はその後鉄南連合町内会の炊き出し訓練に参加。
		西陵中校区	8/26　幌西小と合同で訓練　市防災担当職員から講話
		緑陽中校区	9/2　地域住民合同避難訓練　消防職員から講話
		鷲別中校区	6/5　鷲中・鷲小で避難訓練同日開催
	家庭科～保育体験	鷲別中	10/24～26 3年生　鷲別保育所で保育体験
		登別中	9/28 3年 コロポックルの森 美術で製作の絵本披露
		緑陽中	2学期 2年生 富岸子育て広場で幼児との関わり方を学ぶ
	総合的な学習の時間	登別中	10/18・19 職業体験 2年生 コロポックルの森・登別小他、校区内事業所
		幌別中	10/18　職業体験 2年生 市内小学校3校と白菊幼稚園、幌別東保育所にて実施　直接幼児や児童と交流
		西陵中	10/26　職業体験 2年生　市内幼稚園・保育所で体験
		鷲別中	10/24　職業体験 2年生　登別温泉地区
		緑陽中	11/16　職業体験 2年生　校区事業所中心
	幼稚園・保育所視察	幌別小	7/10 カトリック幼稚園教員による学校視察（1年）受入
			10/31 教員がカトリック幼稚園視察　12/9 教員が白菊幼稚園発表会視察
		幌西小	教頭・教務主任・特別支援コーディネーターで、白菊幼稚園2回 カトリック幼稚園1回 富士保育所1回 視察・懇談
		幌東小	7月教員が白菊幼稚園を視察　10/25　教員が東保育所見学
		登別小	コロポックルの森　入学式、発表会、参観日、日常の授業など管理職や１年担任などで視察
		若草小	教員がリリー文化幼稚園を視察（7/11 10/19）
		鷲別小	保育所参観時に視察
		富岸小	教員が白菊幼稚園を視察　幼稚園教員が授業参観　幼稚園や保育所職員が小学校参観日に参観
		青葉小	教員が白菊幼稚園視察　2回

登別中	保育や職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察
鷲別中	保育体験の時に合わせて鷲別保育所を視察
緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察
幌別中	職業体験に合わせて白菊幼稚園、幌別東保育所を視察
西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園や保育所を視察

○小中一貫した教育の推進

・6月の校長会議～小中一貫教育が求められる背景、２モデル校区の成果、期待できる効果、本市におけるあり方、基本方針案、平成29年度の取組内容確認。
・市内中学校区で推進協議会の立ち上げ～めざす子ども像の検討や、取組内容の検討、企画、実行。
・中学校区内で合同研修会開催～校区内の教職員で目的や課題の共有。具体的な取組内容の確認。
・西陵中校区では、学校評価の項目を一部統一。成果と課題の共有化を図る。
・11月の教育フォーラム～学校運営協議会メンバーを中心に一貫教育の目的や各校の取組内容を交流。成果と課題意を検証。
・11月の校長会教頭会合同研修会～各校の実践交流。
・2月　市小中一貫教育基本方針策定～目指す背景、これまでの取組、期待できる効果、基本方針、市が目指す在り方、推進の視点と具体的な取組、組織と推進体制についてまとめた。

評　　価	幼保・小・中連携については、協議会で方向性を確認し、相互の視察後に実務担当者会議を開き、各学校種における教育内容や指導方法など具体的事例を通して交流することができた。その後も様々な形で交流を深め、お互いの教育活動への理解が深まり、協働して子どもたちを育む体制づくりを進めることができた。 小中一貫の取組については、2中学校区で進めた成果を活かして他の中学校区で取組をスタートさせることができた。また、教育フォーラムでの地域の方々の意見参酌し、登別が目指す小中一貫の在り方を基本方針で示すことができた。
今後の方向性	幼保小中連携については、さらなる連携の強化に向け、教職員の合同研修や幼児と児童の交流を促進するとともに、幼保・小での一貫性のある教育計画の作成に向けた道筋をつける。 小中一貫した教育については、基本方針に基づき、義務教育９年間を見通した指導が推進されるよう促していく。

項　　目	**9　安全指導・安全対策**
点検内容	警察や消防など関係機関の協力を得ながら学校で実施する交通安全教室や防犯教室、消費者教育や情報モラル教育、避難訓練等の取組が充実するよう促していく。 通学路の安全に向けては、道路管理者など関係機関で構成する登別市通学路安全推進協議会を開催し、危険箇所の把握と改善に努めるとともに、地域や保護者の協力を得て見守り活動を推進し、安全な環境づくりに取り組む。 学校施設の耐震化については、登別中学校校舎の耐震改修工事と富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修の実施設計に取り組む。

取組状況

○交通安全指導

小学校～入学前学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し。実際に保護者と歩くことを推奨。新学期に合わせて交通安全教室実施。入学後、教職員による登下校指導や自転車等の実地指導実施。

中学校～新学期に合わせて交通安全教室実施。自転車通学認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発。

○防犯教室

幌別小	4/20　安全指導集会(不審者対応等　講師：室蘭警察署員)
幌西小	7/14　不審者対策避難訓練（学校侵入者への対応と児童避難）講師：室蘭警察署生活安全係
鷲別小	6/22　不審者対策避難訓練（具体的な対処方法について）講師：室蘭警察署員 対象：全学年
登別小	2/27　担任よる防犯教室（1～3年）不審者、不審電話について
富岸小	5/13　マクドナルド防犯教室実施　不審者に遭遇した際の対処の仕方（全学年）
幌東小	6/21　不審者対応避難訓練（室蘭警察署、地域の方の協力）地域の方が不審者役を演じスタディちゃんの家（東保育所・デザインワーク）に実際に逃げる訓練を行う。
若草小	12/9　不審者が侵入した際の避難訓練を実施
青葉小	5/13　ケータイ・スマホ教室　ｅネットキャラバン　防犯教室（薬物等）室蘭警察署
幌別中	7/5　喫煙防止講座　1/22.29.2/5 非行防止教室　講師：室蘭警察署員　対象：全学年
鷲別中	12/13 室蘭警察署員による薬物乱用防止に関わる講話の際にあわせてお話をいただく
登別中	携帯スマホ教室や薬物乱用防止教室等の講話に合わせて講師からお話をいただく
西陵中	2/2　薬物乱用防止教室の時に、室蘭警察署員から不審者の対応について講話（全学年）
緑陽中	11/24 全学年対象非行防止教室　警察署から講師を招き講話

○情報モラル教育～インターネット安全教室

幌別小	8/26　5･6年対象　スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ。保護者向けにも実施。講師：携帯会社契約社員
幌西小	10/28 ケータイ安全教室としてＫＤＤＩから講師を招いて、携帯やスマホの安全な利用法やネットトラブルなどについて、５・６年を対象に実施。全校参観日で保護者も参加。
鷲別小	12/2　5,6年対象 情報モラルについて 講師：ＬＩＮＥ職員講師
登別小	2/28　ケータイ・スマホ安全教室を４～６年生で実施。　講師：ＮＴＴドコモ職員 ①ルールとマナー②著作権・肖像権③ブログと掲示板の危険性④個人情報の取扱い ⑤迷惑メール⑥ケータイ・スマホの依存症　について実例をもとにポイントを指導。
富岸小	5月第2週､10月第1週　3つのルール強調ウィーク実施。 11/30 ネットトラブル講習会　携帯やスマホ、ネットゲームの安全な利用法や実際に起きるトラブルについて専門家の講習を受けた。対象は高学年及び保護者で実施。
幌東小	5/24　4年生以上対象　スマートフォンやケータイの安全な使い方や、著作権等の指導について　講師：ＮＴＴドコモ職員 10/28 電子メディアとじょうずにつき合おう！！～心と体が元気に育つために大切なこと～メディア（テレビ・テレビゲーム）の心身への影響について、全学年で授業を実施。講師：中谷通恵氏（ＮＰＯ法人お助けネット代表　他）
若草小	4年生以上、学級懇談会及びＰＴＡ役員会での情報交流会、中学校保護者からの情報提供
青葉小	5/13　4年生以上対象 携帯・スマホ教室　講師：Ｅネットキャラバン
幌別中	4/28　1学年対象　正しい使用の具体例を示した講話 1/21･1/29･2/5　全学年対象　昼の放送にて室蘭警察署生活安全課職員による非行防止校内放送（ＳＮＳ・ネットトラブル含む）

鷲別中	7/24　スマホ等安全な使い方やモラル・マナーについて 全学年 講師：ＮＴＴドコモ職員 12/16 スマホ携帯の危険性について　新入生保護者説明会にて新入学生保護者対象 講師：室蘭警察署員
登別中	4/14　携帯スマホ安全教室（講師：KDDI社員）
西陵中	11/13 携帯スマホ安全教室（全学年対象）講師：ＬＩＮＥ社員 ネットトラブルの実例紹介。ＳＮＳでは受け取る側の気持ちを考える等を確認。
緑陽中	4/22　土曜授業で、保護者にも参観してもらい、ＬＩＮＥ等のトラブル防止に向けた全校生徒向けの授業を生徒指導部が主管して実施。

○インターネット使用に関わる指導や啓発の取組

①小4から中3まで、ゲーム機やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を年2回実施。

②結果を受け、市P連・市校長会・市教委で話し合い、市全体での指導の方向性を確認。各学校では「ケータイ・スマホ3つのルール」に基づき、児童生徒への指導や保護者への啓発を強化。学校運営協議会で協議する場面も多く見られた。

③「3つのルール」について、児童会や生徒会や単Pで話し合いを実施。意見を集約し具体的な対応策を市P連と市校長会、市教委の3者で検討。持つこと（持たせること）の危険性や弊害に重点を置いて啓発する方向を確認。

※「自分専用のインターネットが使用できる機器の所有率」　平成29年10月調査結果

小4　78.2%　小5　79.3%　小6　86.1%　中1　89.3%　中2　89.1%　中3　89.2%

（22.6%）　（22.8%）　（27.6%）　（54.1%）　（56.6%）　（65.5%）　（スマホ所有率）

「1日の使用時間が3時間以上の割合」

小4　13.2%　小5　13.3%　小6　18.8%　中1　16.0%　中2　19.6%　中3　26.4%

○ネットパトロールによる取組

道教委委託から情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めた。平成29年度の情報提供の数は14件。対応し解決した数は14件。

○避難訓練

学校名	取　組　内　容
幌別小	避難訓練(地震・火災)　5/9 教室から避難　9/26 休み時間の避難 簡易避難訓練(通年)　地震・火災等を想定した初期動作の確認 11/14 Ｊアラート避難訓練（ミサイル発射対応） 集団下校訓練　学期１回　校外班ごとによる下校訓練 9/5　津波発生時の避難訓練実施 幌別中まで一斉避難
幌西小	5/8　火災想定避難訓練 8/26　小中合同避難訓練　大地震を想定し西小グラウンドから望洋公園までの１㎞を中1と小2、小1と小6が手をつないで避難。
鷲別小	6/5　小中合同避難訓練（地震による津波想定）小学生は3・4階、中学生は屋上避難。 火災想定避難訓練(9/13予告あり　9/27予告なし)
登別小	5/16　火災避難訓練　7/19 立ち止まり訓練（中休み） 9/27　地震津波避難訓練(高台避難：時代村社宅まで)　12/13 立ち止まり訓練(中休み)
富岸小	4/25　地震・火災時の避難経路確認　6/19 中休み避難訓練 9/2　地域連携避難訓練(津波避難) 亀田公園まで避難 富岸町内会による避難誘導協力

幌東小	4/20　火災避難訓練　6/21　不審者対応避難訓練（室蘭警察署、地域の方の協力） 9/23　鉄南連合町内会・幌別中と連携した地区避難訓練を実施　幌別中まで避難 10/18 地震・津波を想定した避難訓練　幌中まで避難 2/10　津波を想定した避難訓練　工学院女子寮ドミトリーまで避難
若草小	5/8　火災避難訓練　8/26 若草町内会と合同津波避難訓練 11/9・11/16 立ち止まり避難訓練
青葉小	5/9 火災対策避難訓練 8/21 保護者引き渡し訓練 9/2 地震・津波想定避難訓練(地域合同)
幌別中	9/1　北海道シェイクアウト参加 9/23　幌東小と合同で地域による大津波避難訓練を実施　幌別中が避難場所
鷲別中	6/5　避難訓練(地震･津波)　登別市立鷲別小学校屋上まで避難（小中同日避難訓練実施） 10/6　避難訓練(地震･火災)
登別中	5/2　火災を想定した避難訓練　9/5 地震津波を想定した高台避難訓練
西陵中	8/26　地震・津波を想定した避難訓練を幌別西小と合同で実施。大地震と大津波を想定した避難行動（シェイクアウト）。小中合同での高台避難と事後指導を実施した。 10/17 火災想定の避難訓練 市防災担当職員から弾道ミサイル落下時の行動について講話
緑陽中	5/10　火災避難訓練 9/3　地域住民合同避難訓練　避難訓練実施･自分の身は自分で守る指導強化

○薬物乱用防止教室

幌別小	12/14 5・6年 危険ドラックの恐ろしさについて室蘭警察署員による講話
幌西小	11/16 6年 薬物の恐ろしさ等について、室蘭警察署員による講話
鷲別小	6年　シンナーや麻薬の恐ろしさについて、担任による指導
登別小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し学級担任が指導
富岸小	2/16　6年 室蘭警察署員から薬の恐ろしさと使用は絶対にいけない旨の講話（喫煙も含む）
幌東小	11/1　飲酒や喫煙、薬物乱用の防止について室蘭警察署員による講話
若草小	関係機関資料活用による学級担任からの指導
青葉小	7/19　3年 防犯教室（薬物の恐ろしさと、犯罪との関係について）　講師：室蘭警察署員
幌別中	12/20 全学年対象　室蘭警察署生活安全課職員による、薬物全般に関する講話
鷲別中	12/13 室蘭警察署員による薬物乱用防止に関わる講話
登別中	11/11 3学年 登別中ＰＴＡ会長による講話～薬物乱用の危険性
西陵中	2/2　全学年 室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
緑陽中	11/24 室蘭警察署員による全校生徒対象の非行防止・薬物乱用防止教室実施

○通学路の安全

・危険箇所の把握と改善～各校から通学路の危険箇所の報告を受け、通学路安全推進協議会協議会で確認。新規箇所1件～交通量が多いが信号機がない箇所→交通安全指導の徹底と注意喚起看板設置を検討。市HPや各校通学路安全マップ等で周知を図った。

※協議会参加者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・室蘭警察署交通課・登別市都市整備部・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ

・地域や保護者の協力を得た見守り活動

町内会等地域ボランティアによる見守り活動のほか、保険会社や郵便局など、市が協定を結ぶ企業と情報共有をして進めた。

○学校施設

・登別中学校校舎の耐震改修工事

１．外部耐震ブレース設置　４構面

２．生徒玄関庇先端部分撤去　2.4m→1.8m

耐震性の判定基準は、構造耐震指標　Is≧0.70

	改修前		改修後
校舎1	Is　0.60	→	0.71
校舎6	Is　0.50	→	0.77





・富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修の実施設計

１．富岸小学校校舎耐震改修工事実施設計

・校舎耐震改修工事

・校舎大規模改造（外壁）工事

・校舎大規模改造（防水）工事

２．幌別西小学校校舎耐震改修工事実施設計

・校舎耐震改修工事（平成30年度～平成31年度）　・校舎大規模改造（外壁）工事（平成30年度）

・校舎（レンガ棟）解体工事（平成31年度）　・渡り廊下改築工事（平成31年度）

評　　価	交通安全教室や防犯教室、情報モラル教育、避難訓練等、関係機関や地域との連携のもとに取組むことができた。特に情報モラルへの啓発は、市P連や校長会と協力し、実態に即した啓発活動を継続することができた。通学路の安全に向けては、市通学路安全推進協議会を開催し、新たに危険箇所1か所の対応を検討し、安全性を高めた。学校施設の耐震化については、登別中学校校舎の耐震改修工事と富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修の実施設計を計画通り実施した。
今後の方向性	安全指導のついては、児童・生徒が状況に応じて適切に行動できるよう地域の方々や関係機関等の連携による安全教室や防犯教室、避難訓練などの活動を支援する。犯罪やトラブルに巻き込まれない力を身に付けるため、情報モラル教育や消費者教育などの取組を促していく。通学路に関しては進行管理を行い、登下校の安全に努める。耐震化については、富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修工事と、登別小学校の耐震改修工事の実施設計に取り組む。

項　　目	10　不登校･いじめ対応
点検内容	登別市不登校・いじめ等対策会議などにおいて情報を共有し具体的な指導方法を検証するとともに、アンケート調査や教育指導専門員による学校訪問等を通して問題の未然防止や早期対応に努める。また地域ボランティアの協力による体験教室や学習支援を行う適応指導教室の充実を図り、子どもたちの登校への意欲を高める。

取組状況

〇いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

・第1回登別市不登校･いじめ等対策会議

日時：平成29年5月17日（水）14：30

参加：校長会代表･教頭会代表･各小中学校担当･教育委員会

内容：報告～28年度における本市不登校の状況・いじめ認知数等・教育相談状況、29年4月現在の状況
協議～29年度各種事業・各校取組の情報交流・指導専門員からの資料提供
研修～小中別交流会

第2回登別市不登校・いじめ等対策会議

日時：平成30年2月14日（水）15：00

内容：報告～29年度における本市不登校状況・いじめ認知件数等・教育相談状況、29年度1月現在の状況
協議～30年度各種事業・各校取組の情報交流・資料提供
研修～中学校区別交流会

・第1回ふれあいサポート懇談会

日時：平成29年6月30日（金）14：30

参加：校長会代表・教頭会代表・不登校児童生徒を抱える学校の教職員・不登校児童生徒が皆無の中学校区は校区内から教職員1名・教育委員会関係者

内容：29年5月末不登校児童生徒状況　第1回学校訪問報告　不登校、不登校傾向及び長欠児童生徒に関する情報交流　鷲別岳登山について連絡

第2回ふれあいサポート懇談会

日時：平成29年10月13日(金)14：30

内容：29年9月末不登校児童生徒の状況　第2回学校訪問報告　情報交流
研修（講話）「不登校と向き合う～この子と向き合う・私と向き合う」
講師：登別市スクールカウンセラー　宮川　　愛 氏

・第1回教職員研修会（講演）

日時：平成29年6月23日(金)15：00　参加：市内小中学校教職員　教育委員会関係者 参加人数187名

講演　「ソーシャル・ボンドを育む積極的な生徒指導」

講師　登別市立若草小学校教頭（前北海道立教育研究所研究・相談部主査）　赤塚　恒太 氏

第2回教職員研修会（演習）

日時：平成29年11月14日(水)15:00　参加人数216名

講演：「心がはずむコミュニケーション力」　講師：芝垣美男法律事務所所長　芝垣　美男 氏

・体験教室「陶芸教室」（健千窯）水曜午前　学校の申し出で協議し随時実施　29年度8名通級

・適応指導教室「スタディ広場」火曜～木曜　学校の申し出で協議し随時実施　29年度3名通級

・自然体験　8月10日(木)　鷲別岳登山　2名参加

・教育指導専門員による相談(電話・来室)5件　学校訪問　年2回（6月中旬・9月中旬）

・不登校等支援関係者情報交流懇談会（2月）～ＳＣ・ＳＳＷ・心の教室相談員
・保護者懇談会～希望により随時開催(定例懇談会は毎月第2火曜日)
・いじめ関係　アンケート調査(年2回)　取組状況調査(年2回)　対応状況調査(年3回)

○不登校出現件数・いじめ認知件数の推移　（単位：件数）

不登校出現件数の推移
(病欠以外の欠席累計30日以上)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小	7	8	5	4	1	2
中	26	25	23	22	18	19
計	33	33	28	26	19	21

いじめ認知件数の推移

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小	19	26	9	22	14	3
中	50	22	11	3	7	11
計	69	48	20	25	21	14

○ＳＣ・ＳＳＷ・心の教室相談員の支援
・ＳＣの相談内容

相談者	不登校	いじめ	暴　力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	学業進路	合　計
児童生徒	52	0	0	12	2	0	2	3	5	76
保護者	24	0	0	0	0	0	3	9	0	36
教職員	60	0	0	1	0	0	0	7	0	68
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）～２名配置　活動状況　全学校を訪問

活動時間	10:30～16:15
対　　象	支援児童生徒　保育所2人　小学校4人　中学校4人　その他0人
問 題 別	家庭環境1件 不登校4件　児童虐待0件 発達障害5件
訪問回数	学校44件　関係機関4件

・心の教室相談員：鷲別中88日・幌別中83日・緑陽中101日・西陵中80日 相談34件(前年度89件)

評　　価	登別市不登校・いじめ等対策会議や教育指導専門員による学校訪問、アンケート調査等を通して、実態把握に努めるとともに、具体的手だての共有を図り、関係機関と連携をして効果的な指導を展開した。また、陶芸教室や適応指導教室では子どもたちの登校への意欲を高めるために、きめ細やかな支援を行うことができた。
今後の方向性	いじめに関しては組織的な対応を促すとともに、市不登校・いじめ等対策会議などでの事例研修や情報交流を通して、教職員の指導力の向上を図り、早期発見、早期対応がなされるよう取り組んでいく。不登校の対応については、引き続き適応指導教室や体験教室の充実を図り、登校意欲を高めていく。

項　　目	**11　特別支援教育**
点検内容	教育支援委員会との連携を深めながら、個別の教育支援計画や指導計画に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が進められるよう、学校の取組を支援する。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況　　（　）：昨年度

	小　学　校	中　学　校
知的障害学級	8学級 24名 (8学級 17名)	5学級 15名 (5学級 12名)
自閉･情緒学級	10学級47名 (10学級 38名)	5学級 13名 (5学級 19名)
肢体不自由学級	4学級 5名 (3学級 3名)	1学級 1名 (1学級 1名)

担当教員	44名(42名)
介助員	7名(4名)
学習支援補助員	20名(16名)

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内　　容
ﾊﾟｰﾄﾅｰﾃｨｰﾁｬｰ派遣事業	学教G	特別支援学校教員による小中学校の発達障がいを含む障害のある児童生徒に対する指導・支援　活用校～幌西小3名 幌東小8名 富岸小1名 青葉小9名 登別小3名　幌別中3名
教育支援委員会 9月～12月	学教G	適正就学に向けた取組 ・委員の幼稚園･保育所訪問観察･検査、担当者との懇談 ・諮問：11/20　答申：12/15（全委員出席） ・総合検査：11/24　検討審査：12/4～12/7
教育支援委員の学校訪問	学教G･対象校	9～11月実施
１日体験入学	全小学校	1～2月各学校で実施
新入学児童合同引き継ぎ	幼･保･小	3/27.28 幼保･小実務担当者会議(就学時引き継ぎ)

②その後の一貫した支援

・各種研修会

登別市特別支援教育振興協議会第1回研修会　8/9 幌別中学校　16名参加

講師：胆振教育局教育支援課義務教育指導班指導主事　坂内仁氏　内容：WiscⅣの実践について

登別市特別支援教育振興協議会第2回研修会　1/9　幌別中学校　20名参加

講師：北海道立伊達高等養護学校教諭（進路指導部担当）　吉田大介氏、古山克典氏

内容：高校卒業後の障がい者の就職の現状について

・特別支援学級作品展 10/14（土）～10/20（金） 主催者：登別市特別支援教育振興協議会

内容：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

・特別支援教育懇談会　11/10

内容：登別市内の障がい者団体と教育委員会が市内小中学校の特別支援教育の在り方を意見交換。
本市の特別支援教育の現状と課題や、学校や家庭、地域、関係団体協力や連携の在り方について

参加：登別市手をつなぐ育成会:4名 登別市ことばを育てる親の会:2名 登別市肢体不自由児童父母の会:2名

評　　価	教育相談や就学指導を適切に実施し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の充実を図った。教育支援推進専門員を中心に学校や関係機関、保護者とのきめ細やかな連携に努め、就学後も必要に応じて支援を継続した。
今後の方向性	市支援ファイル「ふくはうち」を活用するなど、教育と福祉が連携した取組を進め支援の充実に努める。平成30年度から新たに鷲別小に言語障害通級指導教室を開設し児童の成長を支援する体制を強化する。

項　　目	12　学校教育基本計画
点検内容	平成30年度で期間が終了するので、教育関係者や保護者、地域、有識者で構成する検討委員会を設置し、登別の実情に合わせた教育の在り方や学校の適正配置などの課題を整理したうえで、新しい計画の策定に取り組む。

取組状況

○検討委員会設置の検討

・目的：市のまちづくりを担う魅力ある人材を目指すうえでの教育の推進及び基本的な計画の策定に資するためにおく。

・所掌事務：教育の振興のための施策の方向性に関することや基本計画の策定に関することなどについて協議をし、市教委に提言、意見又は報告する。

・委員：学識経験者や各種団体を推進する者など、10人以内を持って組織する。

・設置：30年5月を予定。

○基本計画について

・市教育目標や学校教育目標、学校教育推進の重点は現行のまま。時代の変化や次期学習指導要領との関連の中で検討する。

○その他検討内容

・次期学習指導要領移行期に関わることやコミュニティ・スクール、小中一貫教育に関すること、本市における地域学校協働本部事業の在り方、小中学校の適正配置や給食センター・市立図書館の在り方について情報提供をするとともに広く意見を聞く。

評　　価	基本計画の見直しに係る委員会の設置や基本計画の大まかな骨組みについて、市教委の中で方向性を確認することができた。委員に関しては異動等も考えられることから、平成30年度になってからの選出となったため、具体的な動きを年度内に進めることはできなかった。
今後の方向性	委員会の設置に関しては、年度当初に委員会設置要綱策定の後、各委員への依頼や委員会を立ち上げる。基本計画の内容検討に関しては、市教委内で役割分担をし具体的な検討を進めることを通して実情に合った内容にしていくとともに、計画に対する職員の意識化を図る。また、本市の実情に合わせた教育の在り方に関しては、委員会に基本的な考えを提示し、広く意見を聞く中で今後の方向性を明確にしていきたい。

項　　目	13　社会教育
点検内容	新たな学習機会の創出や多様な地域活動が展開されていく「知の循環型社会」の構築を推進していくとともに、市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、第5次登別市社会教育中期計画に基づく各種施策の展開に努める。 また本市においては「学校支援地域本部」として地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築してきたが、今後は「学校と地域がパートナーとしてともに子どもたちを育て、ともに地域をつくる」という中央教育審議会答申を踏まえ、この組織を基盤にこれまでの活動を充実させながら「地域学校協働本部」へ発展するよう取り組む。

取組状況

○「第5次社会教育中期計画」に基づいた主な各種施策

・人づくり①青少年世代～これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

学校支援本部事業	各中学校区	コーディネーターを配置し体験活動を実施　◇P46～参照
少年の主張大会	緑陽中6/6	中学生による意見発表大会　市内6校12名出場
放課後子ども教室	鷲小・東小	放課後に子どもが安心して活動できる居場所づくり ひなわしメート＝144名登録　はまなすメート＝46名登録
成人祭	市民会館	市と実行委員による企画、運営　出席者368/544人　H30.1.7
通学合宿	ふぉれすと鉱山	小学5.6年生対象に共同生活を通し生活習慣の向上を図る

（◇放課後子ども教室や通学合宿の詳細はP45からを参照）

・人づくり②成人世代～学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

・人づくり③高齢者世代～学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活動による地域教育力の向上

登別ときめき大学	87名登録	市教委の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習基礎コース9講座～受講者313名　他、連携コース122講座実施
市民マイプラン講座	市内各所	サークル等が企画した講座や学習会を支援する 利用団体＝14団体（文化・福祉団体等）
胆振女性リーダー養成研修	1名派遣	女性リーダーの資質向上と地域づくりのための団体活動の活性化が目的　8/24～27　国立女性教育会館（埼玉県）

（◇「家庭教育」→P45からを参照　「文化活動」「健康づくり・スポーツ」→P50からを参照）

・「学習環境の整備」

生涯学習人材バンク～日本工学院での活用を奨励

登録者数　79名（平成28年度78名）79団体（平成28年度79団体）新規登録数 1名～書道

○「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」への発展について

・現在ある学校支援本部事業の形を活かし、将来的に地域学校協働本部へ発展的に移行する在り方を検討。

・体制強化の面から、コーディネーターを補助するサブコーディネーターの配置を検討。

評　　価	人づくりという観点から各世代に応じた事業を展開し、「知の循環型社会」の構築と生涯学習社会の実現に向けて取組を進めた。また日本工学院との連携のもと、人材バンクの活用を進めた。「地域学校協働本部」へ発展については、体制強化の面で検討を始めることができた。
今後の方向性	これからも市民ニーズに合った多様な学習機会の創出と学習成果を地域活動につなげていく知の循環型社会を目指し、第五次社会教育中期計画に沿った各種施策に取り組む。地域学校協働本部への発展については、体制の整備など検討を重ねる。

項　　目	**14　ふるさと学習**
点検内容	本市の歴史や文化、昔の暮らしを学ぶ機会の拡充を図り、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が一層高まるよう努める。 また、アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組を支援する。
取組状況	

○「ふるさと学」の構築
・目的：ふるさと登別を体系的に学ぶ機会を提供することにより、市民意識の醸成とふるさとに対する愛着や誇りを高めていく。
・事業内容：ふるさと学という枠組み（歴史、自然などの分類、その体系図等）を行政及び市民団体が市内で実施している講演会等の事業に対して当てはめ、該当する事業をふるさと学として捉えなおし、市民に対しふるさと登別を学ぶことのできる講座の情報をわかりやすく伝える。
・事業の進め方　①ワークショップの開催　②体系づくり　③対象の抽出　④事業の開始
・ワークショップの開催　　平成30年3月30日（金）
テーマ：「ふるさと学の取組みについて」
メンバー：各種団体、ふるさと登別の歴史・文化に関わる方（関連事業P50～51に◇で表記）

○アイヌ文化の伝承や普及・啓発～登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組支援（関連事業は「17 文化・スポーツの振興」P50～51に◇で表記）
登別アイヌ協会では東京オリンピックのオープニングに係る衣装の製作に必要な和服生地の収集のための周知の相談、知里真志保を語る会では講演会などにおける配布物作成の内容確認、ＮＰＯ法人知里森舎では講演会にかかる横断幕の作成など各種事業の支援、また各団体が実施する事業を市が主催する他事業において紹介するなど、各種相談を含めた支援を行った。

評　　価	「ふるさと学」の構築については、ワークショップを開催するなどの取組をスタートさせたが構築に向けての基盤づくりにとどまり、市民意識の醸成と郷土に対する愛着の一層の高まりまでには至っていない。ふるさと学の体系化を進める必要がある。 アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、各団体の各種相談を受けるなどにより関係づくりに努めている段階である。
今後の方向性	市史編さんの中で紐解かれた郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実を図り、市民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、地域に貢献しようとする意識の醸成を図る。 アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、平成30年度より取組の充実を図るためアイヌ文化に関する窓口を教育委員会に一本化し、新たに設置される国立博物館を含めた関係機関と連携・協働した調査研究を進めるとともに、登別アイヌ協会など市内関係団体とも相互扶助を図りながら、アイヌ文化を自分たちの共有財産として継承していくことができるよう、普及・啓発の取組を進めていく。

項　　目	**15　家庭教育**
点検内容	引き続き市内幼稚園や小学校に家庭教育学級を開設し、学習会や活動展等を実施するとともに、親子の触れ合いの場を創出する家族の時間づくりプロジェクトに取り組み、家庭の教育力の向上に努める。 また、地域ボランティア団体などの協力を得て実施している通学合宿や放課後子ども教室は、子どもたちの生活習慣や学習習慣、協調性、自主性を育む機会として成果を上げているので、引き続き事業の充実に取り組む。

取組状況

〇家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展の支援　　参加者1,502名

ﾘﾘｰ文化幼稚園	8/30ヤマハコンサート　10/3果物狩り　　10/26しめ縄作り 12/4フットエステ講習
登別ｶﾄﾘｯｸ聖心幼稚園	7/14ミニバレー　　10/23スイーツデコ作り　　11/13アロマ・リース作り
白雪幼稚園	6/29ふれあい祭り　　10/27ハロウィンパーティー　12/7おもちつき
白菊幼稚園	5/31虫よけスプレー　　7/6アウトドア　　10/12ヨガ 11/16フラワーアレンジメント　　12/21パン教室
登別小学校	6/5研修会の計画　7/3活動計画の具体化
幌別東小学校	2/17そば打ち体験　2/23食中毒予防講話・給食試食会
幌別小学校	5/24開級式・雑巾作成・給食試食会　　7/19バス研修旅行 10/24消しゴムはんこ　　2/19ハンドエステ教室・給食試食会・閉級式
幌別西小学校	5/24年間計画書の策定　　7/13フロアカーリング 9/7陶芸体験　　11/15おもてなし料理
青葉小学校	7/11開級式・発酵講座　9/29バス研修　11/30閉級式・給食試食会・あて布づくり
富岸小学校	7/6浴衣着付け教室　10/6アイシングクッキー作り　2/6手作りリップスティック
若草小学校	12/6ジェルキャンドルづくり　3/8ミニバレー交流会
鷲別小学校	10/11給食試食会　　11/24ヨガ　2/21子育て講演会・給食試食会
市教委主催	7/12親子で取り組む！夏休みの過ごし方　講師:北海道胆振教育局　川崎　真也氏 11/12子どものこづかいと親子のかかわり 講師:北海道金融広報委員会 横井　規子氏

・家庭教育活動展　11/6～11/9　登別市民会館　4学級

〇「通学合宿」　みんなで学ぶ「子ども村」　場所：ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」
目的～基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせるとともに、協調性や責任感を育む。
対象～小学5.6年生対象　2地区に分け、4泊5日、年3回実施。（平日は施設から登校）計114名参加。
運営～地域ボランティアの協力や北海道の学校サポーター派遣事業を活用して実施。
幌別小・幌別西小・幌別東小・登別小グループ 5/9～13 36名参加
青葉小・富岸小・若草小・鷲別小グループ 5/23～27 38名参加
全校　11/7～11 40名参加

〇「放課後子ども教室」～放課後に子どもたちが安全・安心にて過ごすことができる活動拠点づくり
活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで　10～3月午後4時まで
運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
鷲別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」　合計94日間実施　計4,043名
幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」　合計94日間実施　計1,857名

〇「家族の時間づくりプロジェクト」
子ども(学校)と大人(企業)の休みのマッチングを行い、暦にない独自の３連休以上の休みを創出。
プレ実施　平成29年11月12日(日)～19日(日)　児童生徒による協賛団体利用割合11.0%
内閣府が定める「家族の週間」「家族の日」にあわせ実施。登別温泉日帰り入浴に特典。
本実施日　平成30年1月26日(金)～28日(日)　児童生徒による協賛団体利用割合24.8%
平日の金曜日と土日を組み合わせて３連休を創出。市内私立幼稚園も連休設定。

協賛：(株)登別マリンパークニクス　(株)登別伊達時代村　登別温泉ケーブル(株)　登別市文化・スポーツ振興財団　ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ　おもちゃの博物館「古趣 北乃博物館　登別温泉旅館組合

後援：北海道曹達(株)幌別事業所　室蘭商工会議所　連合北海道室蘭地区連合会　連合北海道登別地区連合会　登別観光協会　登別商工会議所　登別市連合町内会　登別市私立幼稚園協会

共催：北海道運輸局室蘭運輸支局　登別市校長会　登別市　　主催：登別市教育委員会

アンケート調査結果や学校事情、利用状況を総合的に検討し、29年度限りで本事業を終了。

今後は、プレ実施の手法をベースにした「登別版：家族の週間」を実施していく予定。

○「学校支援地域本部事業」　参加者数　計5,620名（大人・児童・生徒とも）

【鷲別中学校区】

鷲別小学校	事業内容
4月中旬	新1年生の付添登下校
5月～3月	鷲別子ども見守り隊による登下校の見守り
7/6	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
2/15	5.6年スキー授業の指導、補助
7月下旬 3回	夏季学習サポート（国語・算数）
12月下旬 2回	冬季学習サポート（国語・算数）
11/26	ふれあい活動（餅つきと消防署見学）
2月	ひな人形飾り

若草小学校	事業内容
5月 9月 10月	ふれあい農園（いも植付け・いも掘り・収穫祭）
7/3	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
10/21	ふれあい活動（昔遊び体験、縁日を楽しむ）
2/19	5.6年スキー授業の指導、補助
6月～2月 13回	放課後サポート（算数）5・6年

鷲別中学校	事業内容
4月中旬　2回	夜間パトロール（新学期下校生徒のため）
9月中旬　3回	夜間パトロール（学校祭前下校生徒のため）

【緑陽中学校区】

富岸小学校	事業内容
5/31	ジャガイモの植え付け
6/27	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
7/10	ジャガイモのうねに土を盛る作業
7/24.25	5.6年学習サポート（国語・算数）
9/7	ジャガイモの収穫
12/26.27	5.6年学習サポート（国語・算数）　※12/26は悪天候で中止
1/29.2/20	5.6年スキー授業の指導、補助
4月～3月 11回	放課後サポート　5・6年

青葉小学校他	事業内容
7/2	川遊び準備（川周辺の草刈り）
7/8	富岸川　川遊び（川魚や水生昆虫の観察）
9/13	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
10/1	茶道教室（青嶺高茶道部による指導）
1/20	餅つき会（ＰＴＡ、親父の会、地域の協力による）
2/17	スポーツチャンバラの体験会
5月から12回	放課後サポート　5・6年

【幌別中学校区（幌別小・幌別東小・幌別中）】

実施時期	事業内容
5月	ふれあい農園　米作り準備
5/28	ふれあい農園　田植え
6月～9月	ふれあい農園　管理
10/7	ふれあい農園　稲刈り・脱穀
10月	ふれあい農園　収穫祭準備（精米）
12/9	ふれあい農園　収穫祭（幌別小）
12/15	ふれあい農園　収穫米の贈呈
6/23.7/5	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）（幌別東小・幌別小）
9/25	ふれあい広場　乗馬・餌やり体験
2/16	5.6年スキー授業の指導、補助
5～2月	放課後学習塾（幌別小）
5～3月	放課後学習塾（幌別東小）
週3回	図書ボランティア～図書の整理修理等（幌別東小）

【西陵中学校区（幌別西小・西陵中）】

実施時期	事業内容
6～2月　15回	放課後学習サポート　幌別西小4～6年
7/11	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
11/12	親子ふれあいスポーツ大会
2/16	5.6年スキー授業の指導、補助

【登別中学校区（登別小・登別中）】

実施時期	事業内容
5～7月	ふるさと農園準備・花壇整備
8/26	ふるさと農園収穫祭
10/14	サケの採卵体験
11/18	モザイクアート教室（小物入れ等作成）
1～2月　5回	スキー授業の指導、補助
2/5	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）

評　価	家庭教育学級では、さまざまな取組を通して家庭の教育力の向上を図れた。家族の時間づくりプロジェクトは取組から5年になり、一定の成果は上げたものの、休校日の創出や保護者の休暇取得等に課題があり、今年度で終了した。通学合宿や放課後子ども教室、学校支援地域本部事業においては、地域バランティアの協力のおかげもあり、子どもたちに豊かな学びの場を提供することができた。
今後の方向性	家庭教育については、家庭教育学級をを通じて情報提供や学習機会の充実に努める。また、児童の望ましい生活習慣の確立や、社会性・協調性を育むために、市子ども会育成連携協議会やボランティア団体の協力を得て、通学合宿や他後子ども教室を実施する。 家族の時間づくりプロジェクトについては、プレ実施の手法をベースにした「登別版：家族の週間」を実施し、親子の触れ合いの場を創出する。

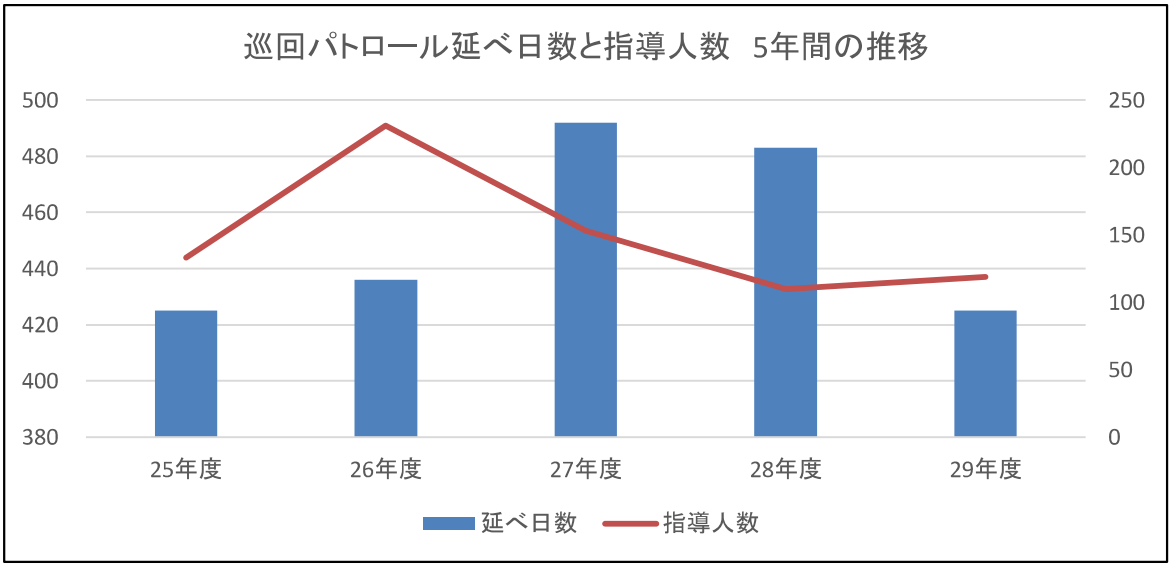
項　　目	**16　青少年の健全育成**
点検内容	青少年センターを中心に、巡回指導や関係機関・団体との連携、不審者への対応などに取り組み、良好な環境の確保と非行防止に努める。

取組状況

○登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況

	通常巡回		特別巡回	合　計
	鷲別･緑陽　中校区	登･幌･西･明　中校区	（列車添乗･祭典その他）	
延べ日数	171日	200日	54日	425日
延べ巡回数	233回	304回	136回	673回
延べ人員	433人	498人	324人	1,255人
指導人数	61人	46人	12人	119人



※指導の内訳　　(単位：件数)

	自転車等			危険な行為			その他(ゲームコーナー含む			合　計		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
13歳未満	25	19	21	93	66	71	7	1	0	125	86	92
13歳	4	0	4	7	1	3	0	0	0	11	1	7
14歳	1	3	7	7	12	0	0	0	4	8	15	11
15歳	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
16歳	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
17歳	3	0	5	0	0	0	0	0	0	3	0	5
18歳	4	2	0	0	0	4	0	0	0	4	2	4
19歳	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	39	30	37	107	79	78	7	1	4	153	110	119

「自転車等」指導内容と推移(前年度比) 無灯火14件(+5件) 並進運転0件(－9件) 車道の逆走11件(+1件) 他

「危険な行為」指導内容と推移(前年度比) 道路遊び38件(+7件)　スケートボード15件(+6件)

キックスケーター12件(－2件)　遊泳禁止区域水遊び0件(－11件)　他

・万引き状況　(調査を依頼し報告を受けたもの)　　(単位：件数)

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
26年度	2	3	0	20	25
27年度	12	2	0	9	23
28年度	10	0	0	6	16
29年度	10	0	0	9	19

※市内大型店3店舗、市内コンビニ20店舗、その他25店舗、計48店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況　　(単位：件数)

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷲別地区	その他	合計
26年度	0	1	13	8	0	22
27年度	0	3	15	11	0	29
28年度	0	0	14	16	0	30
29年度	0	0	4	8	0	12

○子ども110番の家　　地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所　459件設置

内訳：鷲中校区115件 緑中校区111件 幌中校区125件 西中校区50件 登中校区58件

○情報の共有

・登別市青少年指導委員連絡会～学校教員と一般の指導員による交流、状況や指導の重点を確認。

・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議～小学校・中学校他代表教諭による現状や課題などについての情報交流、協議、問題行動の早期発見や未然防止を図る。

・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信。

・メール配信システム～室蘭市や伊達市など、西胆振６市町の定住自立圏連携事業が進める、保護者向けのもの。学校から保護者に災害･不審者情報などをいち早く確実に伝える。参加校～全小中学校。

評　　価	巡回パトロールでは、平成27年度からの指導人数の減少に伴い、回数の効率化を図って実施することができている。不審者の出没状況でも過去4年間の中で一番少なかった。13歳未満の自転車の乗り方や危険な行為に対する指導は引き続き強化が必要。
今後の方向性	引き続き、青少年センターを中心に家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組みとともに、学校や関係機関と情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止に努める。

項　　目	**17　文化・スポーツの振興**
点検内容	平成28年度は文化庁の事業や西いぶり定住自立圏文化事業を活用して「能楽」や「文楽」などの伝統芸能に触れる機会を設けた。引き続き登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会、登別市体育協会などと連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催に取り組む。

取組状況

○西いぶり定住自立圏文化事業

公演名：札幌交響楽団　室蘭公演　出演者：札幌交響楽団、田部京子（独奏者）10/22　1,175名

○伝統文化の継承と郷土を愛する心の育成

・平成29年度文化芸術による子供の育成事業「くず～い屑屋でござい」
　ワークショップ　6/22　幌別西小6年　児童49名　教員4名　計53名
　本公演　9/25　市内小6　児童310名　教員28名　保護者・一般67名　計405名
・学校での郷土芸能の伝承
　鷲別小学校～鷲別子ども獅子舞　祭典や地域行事での披露
　幌別東小学校～駒踊り　学校行事や市民演芸会で披露
　登別中学校～熊舞　地獄まつり、外国人観光客歓迎時に披露
・12/23　登別市文化・スポーツ財団、登別市文化協会、登別市体育協会合同事業「文化・スポーツ振興2017」に、鷲別子ども獅子舞(鷲別小)・駒踊り(幌東小)・熊舞(登別中)が参加。

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励　（◇は、P43「ふるさと学」と関連）

◇縄文出前講座　4月　市内小学校5校で実施（6年生 10クラス 233名参加）

◇アイヌ文化講座　1/20　北海道大学大学院文学研究科准教授　谷本　晃久 氏より「アイヌ史と日本史、アイヌ文化と和風文化－時代区分のはなし－」について講演いただき、多くの市民にアイヌ文化を学ぶ機会を提供した。参加者45名

◇古文書教室　2/3　北海道博物館学芸主幹　三浦泰之氏による「幕末の志士・松浦武四郎が見た登別」について講演。参加者60名
　2/10・2/11　古文書解読の実践2回。延べ48名参加
　3/17　実際の古文書を観察。特徴をつかむ活動。17名参加

◇歴史交流事業　9/15･16　白石市から文化財担当職員2名が派遣され、本市に残る関係資料の所在調査や聞取りを行い、歴史交流講演会の講師を務めた。講演会35名参加

◇郷土資料館特別展　7/8～9/3「要覧でふり返る登別」　見学者568名
　9/16～12/3　「石碑が語る地域の歴史」　見学者637名

9/22　カルチャーナイト　見学者11名
3/10～4/15「はじめまして！－平成29年度新資料－」　見学者181名

◇郷土資料館企画展　「五月武者人形展」4～5月「さくら写真展」5～6月　「おひなさま人形展」2～3月

・郷土資料館事業　5/20 わんぱくサムライ体験　250名

・文化伝承館事業　通年　ボランティアSLGによるべこもちづくりなどの体験　17回　254名参加

◇各種講演

7/13　「北海道とアイヌ文化」「武士団の移住と登別」（幌別中学校社会科資料館見学）
8/1　「もう一つの明治維新～武士団の移住と登別」（室蘭市教育研究会社会科部会）
8/23　「北海道とアイヌ文化」（ロータリークラブ）
8/29　「日本の焼き物史」（日本工学院北海道専門学校観光ビジネスコース）
9/24　「もう一つの明治維新～武士団の移住と登別」（宮交観光　伊達武将隊バスツアー）
12/14　「土地が記憶する北海道の歴史・縄文の世界」（㈱ネットワーク職員研修）

○市民へ文化活動の発表の場を提供

・市民会館サークル展　10/24～27 市民会館を中心に活動しているサークルの活動紹介と作品展示
10団体出展

○東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてのスポーツの振興

元オリンピック選手などによる講演会や実技指導等
講師：北京五輪バドミントン日本代表　小椋久美子氏 10/1トークショー「夢を実現する力」実技指導

○健康づくり、スポーツ振興

市民ラジオ体操会	7/29　282名	スポーツ推進委員の協力により、若草小・幌別小で実施
西胆振6市町小学生スポーツ交流会	5/27　492名	西胆振3市3町の小学生を対象としたスポーツ大会（陸上競技） 会場：室蘭市入江運動公園陸上競技場
市民スポーツ･健康フェスティバル	10/1　769名	市内体育施設を会場とした市民スポーツ大会 岡志別の森運動公園：パークゴルフ･ソフトボール･駅伝・スポーツ鬼ごっこ・ノルディックウォーキング体験に253名参加 市民プール：親子ベビー水泳教室・パン食い競争・水中玉入れ競争・水中障害物競争・水中宝探しゲーム・個人水泳タイム計測・トレーニングマシン体験・ボッチャ・ゲーリング体験・健康測定会に516名参加
学校体育施設開放事業	通年	10施設(小8校、登中、旧温泉中体育館)を開放 延べ開放日数1,130日　延べ利用団体1,456団体　延べ利用人数21,016名

評　　価	文化庁の事業や西いぶり定住自立圏文化事業、登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会、登別市体育協会合同事業などを活用し、子どもたちに文化について考える機会を与えることができた。郷土芸能や各種行事に関しては積極的な活動を奨励した。 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて小椋久美子氏に講演してもらうとともに直接子どもたちを指導していただき、一流選手を身近に感じる機会を設けることができた。

今後の方向性	引き続き、市民の文化活動の参加促進や芸術鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会などの充実に努める。また、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、子どもたちの夢を育み、市民のスポーツに対する意識を高めるため、一昨年からオリンピアンによる講演会や実技家講習会を開催してきたが、次年度は卓球競技において実技講習会を実施していく。

項　　目	18　学校給食
点検内容	衛生管理の徹底を図るとともに、学校生活管理指導表を活用したアレルギー対策を実施し、安全・安心な給食の提供に努める。

取組状況

○地元の食材を積極的に取り入れた献立づくり（使用回数78回　使用率37.86％）

毎日提供している「のぼりべつ牛乳」や富浦産だし昆布、鮭のダイスカット等、地場産品の積極的な活用。年１回開催する学校給食展での地場産品を活用した給食メニューの提供。地場産品の使用内容を献立表やランチメール等に記載し各学校や保護者に配布したほか、野菜等についても、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定し広域な地産地消の取組も実施。

○発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食の提供

文部科学省の学校給食摂取基準等に基づき、学校栄養教諭が献立を作成するなど、児童・生徒の栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食を提供。児童生徒の体力不足を補い丈夫な体をつくるため、学校教育Ｇと連携して各小学校に栄養教諭を派遣し、食育授業を年12回実施。

○「和食」を伝えるための給食の実施

月	和食の献立名
4月	豚汁
5月	フキの味噌汁
6月	鶏味噌汁
7・8月	もずく入り味噌汁
9月	石狩汁

月	和食の献立名
10月	さつま汁
11月	けんちん汁
12・1月	あすかなべ
2月	豆腐とわかめの味噌汁
3月	かぼちゃ団子の味噌汁

○第8回登別市学校給食展

目　的　　学校給食の意義・役割等について、市民の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実、発展を図ることを目的とする。

期間･場所　平成30年1月24日（水）　登別市民会館大会議室

内　容　　①試食会　　・地場産品を活用した学校給食メニューを提供

②食育相談所　　・栄養教諭による食育相談

③食品業者紹介コーナー・安全・安心な食品を届けてくれる給食物資納品業者による各種展示

④給食展スタンプラリー　　⑤手洗い教室　　⑥その他

提供内容　地場産品の「登別豚」を使用した「のぼりべつ豚カレー」

○食におけるアレルギー対応

①情報の共有

・学校や関係機関（医療関係や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童生徒の状況、緊急時の対応、その他研修内容等を交流し連携を図った。

・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②実際の対応～学校から提出される「給食申込書」により対応。

牛乳アレルギー：小学校24名→豆乳に変更14名　麦茶に変更10名

中学校（明日中等含む）10名→豆乳に変更7名　麦茶に変更3名

③給食センターからの情報発信

各学校に対し食物アレルギーの児童・生徒用（学校等配布）　予定献立表（小中学校・児童生徒へ配布）予定献立（主な材料名：小中学校へ配布）、使用品目のアレルゲン表示一覧表（小中学校へ配布）

ランチメール（小中学校へ配布）

評　　価	給食の献立に地元の食材を積極的に活用するとともに周知を図ることで、児童生徒や保護者等の食への関心を高める取組ができた。また、出来るだけ近隣や道産品を活用し広域な地産地消の取組もできた。栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食の提供に努めたほか、各小学校に栄養教諭を派遣し、「栄養のバランスや生活のリズムの大切さ」などを理解してもらうための食育授業を実施したことで、児童生徒の健康維持・増進、体位の向上を図ることができた。
今後の方向性	引き続き健康の保持と体位の向上を目的に、安全で安心な給食を提供するとともに、地場産品を取り入れ、食育授業などを通して児童生徒の食への関心を高めるとともに、地域の自然や産業に対する理解を深めていく。

項　　目	**19　図書館**
点検内容	図書資料の整備や情報の提供、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに図書館運営の指針となる図書館ビジョンの策定に取り組む。 また、第2次登別市子ども読書活動推進計画は平成29年度で期間が終了するので登別市立図書館協議会の意見を伺いながら新たな計画の策定を進める。

取組状況

○平成29年度　図書館での貸出冊数203,612冊　移動図書館車での貸出冊数20,131冊　購入冊数6,096冊

○図書ボランティアとの連携・協働。

おはなし会（12回）、わらべうたと手遊び（19回）、本の書評合戦「ビブリオバトルの夕べ」（6回）、登別子ども劇場（4/16）、おはなしぽけっと主催「はじめての油絵」講座（全２回、7/15･29）、おはなしぽけっと主催「新春カルタ大会」（1/16）、「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡協議会」（6/30）

○市民との協働事業

ふるさと再発見講座「郷土資料を電子データに」講師：高森繁美氏(12/9) 地域文化講座「たたら製鐵講座」講師：室蘭・登別たたらの会(2/24)、絵本講座「大人だからうけとめられるもの続」講師：瀧内智子氏(1/20)、「アイヌ講座」講師：富樫利一氏(全２回、11/3、2/17)、「国連世界食糧デー特別展」(10/15～22)

○ブックスタート・ライブラリースタート事業や図書館講座などを通して、利用者の増加を図る。
・ブックスタート（４か月児を対象に、絵本３冊とアドバイス集などを配布。実施数291人）
・ライブラリースタート（３歳児と保護者を対象に図書館で本１冊を選び送付。実施121人）

○図書館講座（資料の探し方やデータベースの使用法、暮らしに役立つ図書館の活用術。「登別ときめき大学」連携講座。単位２単位）「図書館長による資料検索入門－本を探す―」(7/15)、「初めてのデータベース：データベースを使って調べものをする。」(11/18)

○移動図書館車「こぐま号」車両更新関連事業（共催：室蘭信用金庫、協力：日本工学院北海道専門学校）
・リニューアル記念　新キャラクターなまえ・ぬりえコンテスト（7/4-8/18）応募198人
・こぐま号外観デザイン・新キャラクターネーミングコンテスト（12/25-1/22）応募数503人
・なまえ・ぬりえコンテスト表彰式・室蘭信用金庫車両購入費寄贈式（3/27）

○主なイベント等の事業　（◇は「ふるさと学」と関連）

4/1-22	「登別市立小中学校教科書展」
5/20	「めがねおじさんのにんぎょうげきと工作」劇団クレヨンカンパニー降幡幸雄氏
6/30	「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡会議」
7/15･29	「はじめての油絵」（全２回）講師：おはなしぽけっと高木三千子氏
7/15	「図書館長による資料検索入門－本を探す―」講師：図書館長
7/15-27	「北海道みんなの日」制定記念「開拓の歩み」展
7/29-8/18	「図書を使った調べる学習コンクール入選作品展」
7/29	「夏休み工作」
9/1～15	「年長児の読書感想画展」対象：市内幼保年長児　応募 258 作品
9/22	「登別カルチャーナイト-秋の夜の百人一首大会」
11/3	◇ アイヌ講座「紙人形ウレシパ劇場」講師：富樫利一氏
11/11	「登別市立図書館を育てていくための市民のつどい　第１回」（利用者懇談会）
11/18	「初めてのデータベース-データベースを使って調べものをする-」講師：図書館長
11/26	登別まちゼミ 2017　（主催：アーニス）
12/9	◇ ふるさと再発見講座「郷土資料を電子データに」講師：高森繁美氏
12/9	「クリスマス工作」
12/16	小･中学生の読書感想文･読書感想画コンクール入賞者表彰式 読書感想文応募：小学校 347 名･中学校 102 名　入選：小学校 44 名･中学校 21 名 読書感想画応募：小学校　78 名　入選：小学校 10 名
2/17	◇アイヌ講座「アイヌ民族の歴史を学ぼう」講師：富樫利一氏
2/2	◇地域文化講座『たたら製鉄講座』　講師：石崎勝男氏（室蘭・登別たたらの会）
3/1～29	雑誌と本のリサイクル市

○新規事業
・「トイレ洋式化改修」7 月　　・「第３次登別市子ども読書活動推進計画」策定
・「登別市立図書館のめざすもの」（図書館運営ビジョン）策定（関連事業：利用者懇談会開催）
・図書館広報誌の改善　「図書館通信」内容刷新、「じどうしつだより」配布場所改善

評　価	図書資料の整備については、書架レイアウトの見直し、書架やフロア表示の改善、飽和資料の除籍と除籍資料の市民への提供を行った。 情報の提供については、８月から「図書館通信」の内容の大幅な刷新を行い、職員全員による書評やコラムを掲載、従来の4ページから12ページにし情報の充実を図った。 レファレンスサービスなどの充実については、引き続き「図書館講座」を開設し、各種データベースの利用法や周知に努めた。 図書館運営の指針となる図書館ビジョンについては、図書館協議会の答申や審議、諮問を経て「登別市立図書館のめざすもの」を策定した。併せて、利用者懇談会「登別市立図書館を育てていくための市民のつどい」を開催した。 平成29年度で期間が終了する「第２次登別市子ども読書活動推進計画」についても、図書館協議会での審議を経て「第３次登別市子どもの読書活動推進計画」を策定した。
今後の方向性	図書資料の整備や施設・設備の改善、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに、平成30年３月策定の「登別市立図書館のめざすもの」に基づき、「市民とともに成長する図書館」「地域に根ざした図書館」をめざし、市民が主体的に図書館活動に関わることのできる体制づくりに取り組む。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	評定
1	地域とともにある学校づくり	コミュニティ・スクールを導入して4年目になるが、これまで学校においては地域の様々な意見を反映した学習活動や土曜授業などが実践されるとともに、その活動を広く地域に発信し地域と一体となった学校運営が推進されている。地域の教育資源を生かした世代間交流や郷土学習の充実、教育フォーラムの開催などを通して地域と協働で子どもたちを育む活動に取り組む。	A
2	確かな学力の向上	教育課程課題検討委員会において各学校や市全体の分析結果を踏まえた指導方法の工夫改善や学習習慣の定着を図るとともに、学習ボランティアの協力をいただいて実施している放課後学習教室などを通して、基礎的な学習習慣の定着と学ぶ意欲の向上に努める。英語教育についてはコミュニケーション能力の育成や異文化への理解を深めるため引き続きＪＥＴプログラムによる外国人英語指導助手を活用し、小学校低学年から中学校まで一貫した取組を進める。 また、外国人英語指導助手の生活面のサポートや学校における連絡調整などを行うＪＥＴプログラムコーディネーターを増員し、充実した指導が進められるよう支援する。	C
3	読書活動の推進	学校図書館への司書の配置により、貸出冊数が増加するなど大きな成果を上げているので、引き続き学校図書館の充実に努め、児童生徒が意欲的に読書活動に取り組むことができるよう促す。	A
4	教職員の指導力の向上	北海道教育委員会が指定する学校力向上に関する総合実践事業の成果が、研究会等を通して市内各学校に還元されるよう促すとともに、登別市教育実践奨励校の指定や登別市教育研究会の活動を奨励し、指導方法の工夫や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められるよう支援する。	B
5	豊かな心の育成	自然体験や社会体験、ボランティアの活動を奨励し、他人を思いやる心や自律心、規範意識等の醸成に努める。 また道徳教育については、平成30年度から「特別な教科　道徳」として一層の充実が求められているので、各学校における適切な取組が推進されるよう、指導資料の提供や研修機会の充実に努める。	A
6	体力の向上	引き続き１校１実践や新体力テストの活用など、学校の取組を促すとともに、体育コーディネーターの派遣事業を実施する。食育では子どもたちが食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために、引き続き栄養教諭を中心に教育活動全体を通して、食に関する指導を充実していく。	A
7	特色ある教育活動	児童生徒一人ひとりの個性を生かし、「生きる力」を育むため、引き続きスキー授業や温泉入浴体験、環境学習など、地域の教育資源を活用した各学校の取組を支援していく。	A

8	幼保・小・中連携	幼保・小・中連携協議会を中心に、各学校種における教育内容や指導方法などそれぞれの教育活動への理解を深めるとともに、教職員による引継ぎなどを通して、円滑な接続がなされるよう支援する。 小中一貫の取組については、義務教育9年間を連続した期間としてとらえ、指導の一貫性を図ることが重要なので、基本方針を策定するとともに、平成28年度にモデル校として西陵中学校区と登別中学校区が実践した成果を検証し、市内全中学校区で展開できるよう資料の提供や研修会の開催などに取り組む。	A
9	安全指導・安全対策	警察や消防などの関係機関の協力を得ながら、学校で実施する交通安全教室や防犯教室、消費者教育や情報モラル教育、避難訓練等の取組が充実するよう促していく。通学路の安全に向けては、道路管理者など関係機関で構成する登別市通学路安全推進協議会を開催し、危険箇所の把握と改善に努めるとともに地域や保護者の協力を得て見守り活動を推進し、安全な環境づくりに取り組む。学校施設の耐震化については、登別中学校校舎の耐震改修工事と富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修の実施設計に取り組む。	B
10	いじめ・不登校への対応	登別市不登校・いじめ等対策会議などにおいて情報を共有し具体的な指導方法を検証するとともに、アンケート調査や教育指導専門員による学校訪問等を通して問題の未然防止や早期対応に努める。 また、地域ボランティアの協力による体験教室や学習支援を行う適応指導教室の充実を図り、子どもたちの登校への意欲を高める。	A
11	特別支援教育	教育支援委員会との連携を深めながら、個別の教育支援計画や指導計画に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が進められるよう学校の取組を支援する。	A
12	学校教育基本計画	平成30年度で期間が終了するので、教育関係者や保護者、地域、有識者で構成する検討委員会を設置し、登別の実情に合わせた教育の在り方や学校の適正配置などの課題を整理したうえで、新しい計画の策定に取り組む。	B
13	社会教育	新たな学習機会の創出や多様な地域活動が展開されていく「知の循環型社会」の構築を推進していくとともに、市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、第5次登別市社会教育中期計画に基づく各種施策の展開に努める。 また本市においては「学校支援地域本部」として地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築してきたが、今後は「学校と地域がパートナーとしてともに子どもたちを育て、ともに地域をつくる」という中央教育審議会答申を踏まえ、この組織を基盤にこれまでの活動を充実させながら「地域学校協働本部」へ発展するよう取り組む。	B
14	ふるさと学習	本市の歴史や文化、昔の暮らしを学ぶ機会の拡充を図り、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が一層高まるよう努める。また、アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組を支援する。	C

15	家庭教育	引き続き市内幼稚園や小学校に家庭教育学級を開設し、学習会や活動展等を実施するとともに、親子の触れ合いの場を創出する家族の時間づくりプロジェクトに取り組み、家庭の教育力の向上に努める。 また、地域ボランティア団体などの協力を得て実施している通学合宿や放課後子ども教室は、子どもたちの生活習慣や学習習慣、協調性、自主性を育む機会として成果を上げているので、引き続き事業の充実に取り組む。	A
16	青少年の健全育成	青少年センターを中心に、巡回指導や関係機関・団体との連携、不審者への対応などに取り組み、良好な環境の確保と非行防止に努める。	A
17	文化・スポーツの振興	平成28年度は、文化庁の事業や西いぶり定住自立圏文化事業を活用して「能楽」や「文楽」などの伝統芸能に触れる機会を設けた。引き続き登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会、登別市体育協会などと連携して、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催に取り組む。	A
18	学校給食	衛生管理の徹底を図るとともに、学校生活管理指導表を活用したアレルギー対策を実施し、安全・安心な給食の提供に努める。	A
19	図書館	図書資料の整備や情報の提供、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに、図書館運営の指針となる図書館ビジョンの策定に取り組む。 また、第2次登別市子ども読書活動推進計画は平成29年度で期間が終了するので登別市立図書館協議会の意見を伺いながら新たな計画の策定を進める。	A

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

1　地域とともにある学校づくり
- 本市は胆振の中でも早くに取り組み、前学務主幹が道教委のアドバイザーに就任して本市の実践を広く発信していることが分かった。これからも取組がより一層充実するよう進めてほしい。

2　確かな学力の向上
- 放課後学習では、本当に関わってほしい子どもへのアプローチが大切と感じる。学校や家庭の協力の下、取組の効果が高まることを期待している。

3　読書活動
- 学校図書館は、子どもたちの読書意欲を高めることにとどまらず、落ち着いた教育環境をつくりだすことにもつながっている。
- 全校の子どもたちが読んだ本の数を可視化する「読書の木」など、学校司書のア

イディアが子どもたちの意欲を高めていると感じる。
・学校司書の中学校の配置をぜひ検討してほしい。

４　教職員の指導力の向上
・毎日の授業参観やテーマ別研修など、管理職中心に資質の向上に取り組んでいることが取組から伝わってくる。各校の成果を市内外に広く広げてほしい。
・学校は時代の変容と共に新しいことが求められ続けている。同時に先生方の多忙化が心配。管理職が重点をかけて学校経営ができる環境づくりを期待する。
・教育機器の充実が課題。

５　豊かな心の育成
・体験を重視した教育の重要性は理解するが、過多にならないような配慮も必要。

６　体力向上
・１校１実践の取組は非常に有効と考える。子ども同士の高め合いが期待できる。

７　特色ある教育活動
・この項目に租税教育をおくことは再考が必要か。

８　幼保・小・中連携
・協議会を中心に、実際に子どもたちに関わる教員が指導方法を確認し合う実務者会議を開催し、小１プロブレム解消に向けて取り組んでいることが分かった。

１０　不登校・いじめ対応
・教育指導専門員中心に、個々の事例に即したいじめ対応を進めていることが分かった。これからもいじめの深刻化が進まないように取り組んでほしい。
・ソーシャル・ボンド（絆づくり）の観点から、縦のつながり、横のつながり、斜めのつながりなどを模索し進めていくことが大切。

１３　社会教育
・限られた職員体制の中、精力的に業務を進めていると感じる。委員会として重点化を図り進めていくことも大切か。そうすることで成果の見取りもしやすくなると感じる。

１４　ふるさと学習
・市の中の温泉の位置づけをどう捉えていくかが、ふるさと学習を進める上だけではなく今後のまちの発展を考える上でも大切。

１９　図書館
・ライブラリースタートを利用する数が増えているのは、受付場所の拡大などの工夫があったからということが分かった。これからも一層進めてほしい。

Ⅴ 評価のまとめ

平成29年度の登別市教育委員会の重点施策として点検・評価で取り上げた19項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・　４項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・　２項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・・　０項目

であり、教育行政執行方針に沿っておおむね適切な教育行政の執行がなされたと考えております。今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

１　平成 29 年度教育行政執行方針

平成二十九年第一回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

グローバル化や情報通信技術の飛躍的な進展により、社会が急激な変化を遂げる中、子どもたち一人ひとりに、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を育む教育が、ますます重要となってきております。

こうした中、国においては平成二十八年度中に、新しい時代に柔軟に対応できる人材の育成を理念とした学習指導要領の告示を行うこととしております。

教育委員会としましては、これらの動向や本市のこれまでの取組の成果と課題を踏まえ、先見性のある教育施策を展開するとともに、市民一人ひとりが生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

以下、平成二十九年度の重点項目について申し上げます。

はじめに学校教育についてであります。

「地域とともにある学校づくり」を目指し、コミュニティ・スクールを導入して四年目を迎えますが、これまで学校においては、地域の様々な意見を反映した学習活動や土曜授業などが実践されるとともに、その活動を広く地域に発信し、地域と一体となった学校運営が推進されております。

今後も、地域の教育資源を生かした世代間交流や郷土学習の充実、教育フォーラムの開催などを通して、地域と協働で子どもたちを育む活動に取り組んでまいります。

確かな学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果、本市の児童生徒には、活用する力の不足や家庭での学習時間が不十分な状況が課題としてありますので、登別市教育課程課題検討委員会において、各学校や市全体の分析結果を踏まえた指導方法の工夫改善や学習習慣の定着を図るとともに、学習ボランティアの協力をいただいて実施している放課後学習教室などを通して、基礎的な学習内容の定着と学ぶ意欲の向上に努めてまいります。
英語教育については、コミュニケーション能力の育成や異文化への理解を深めるため、引き続きＪＥＴプログラムによる外国人英語指導助手を活用し、小学校低学年から中学校まで一貫した取組を進めてまいります。
また、外国人英語指導助手の生活面のサポートや、学校における連絡調整などを行うＪＥＴプログラムコーディネーターを増員し、充実した指導が進められるよう支援してまいります。

読書活動については、学校図書館への司書の配置により、貸出冊数が増加するなど大きな成果を上げておりますので、引き続き学校図書館の充実に努め、児童生徒が意欲的に読書活動に取り組むことができるよう促してまいります。

教職員の指導力の向上については、北海道教育委員会が指定する学校力向上に関する総合実践事業の成果が、研究会等を通して市内各学校に還元されるよう促すとともに、登別市教育実践研究奨励校の指定や登別市教育研究会の活動を奨励し、指導方法の工夫や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められるよう支援してまいります。

豊かな心の育成については、自然体験や社会体験、ボランティアの活動を奨励し、他人を思いやる心や自律心、規範意識等の醸成に努めてまいります。
また、道徳教育については、平成三十年度から「特別な教科　道徳」として一層の充実が求められておりますので、各学校における適切な取組が推進されるよう、指導資料の提供や研修機会の充実に努めてまいります。

体力の向上については、全国調査の結果、小学校では全国の平均値を上回るものの持久力や走力に課題が残っておりますので、引き続き一校一実践や新体力テストの活用など、学校の取組を促すとともに、体育コーディネーターの派遣事業を実施してまいります。
食育では、子どもたちが食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために、引き続き栄養教諭を中心に教育活動全体を通して、食に関する指導を充実してまいります。

特色ある教育については、児童生徒一人ひとりの個性を生かし「生きる力」を育むため、引き続きスキー授業や温泉入浴体験、環境学習など、地域の教育資源を活用した各学校の取組を支援してまいります。

幼保・小・中連携については、登別市幼保・小・中連携協議会を中心に、各学校種における教育内容や指導方法など、それぞれの教育活動への理解を深めるとともに、教職員による引継ぎなどを通して、円滑な接続がなされるよう支援してまいります。
また、小中一貫の取組については、義務教育九年間を連続した期間としてとらえ、指導の一貫性を図ることが重要でありますので、本市としての基本方針を策定するとともに、平成

二十八年度にモデル校として西陵中学校区と登別中学校区が実践した成果を検証し、市内全中学校区で展開できるよう、資料の提供や研修会の開催などに取り組んでまいります。

安全指導並びに安全対策については、警察や消防などの関係機関の協力を得ながら、学校で実施する交通安全教室や防犯教室、消費者教育や情報モラル教育、避難訓練等の取組が充実するよう促してまいります。
また、通学路の安全に向けては、道路管理者など関係機関で構成する登別市通学路安全推進協議会を開催し、危険箇所の把握と改善に努めるとともに、地域や保護者の協力を得て見守り活動を推進し、安全な環境づくりに取り組んでまいります。
学校施設の耐震化については、登別中学校校舎の耐震改修工事と、富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修の実施設計に取り組んでまいります。

不登校やいじめの対応については、登別市不登校・いじめ等対策会議などにおいて、情報を共有し具体的な指導方法を検証するとともに、アンケート調査や教育指導専門員による学校訪問等を通して問題の未然防止や早期対応に努めてまいります。
また、地域ボランティアの協力による体験教室や、学習支援を行う適応指導教室の充実を図り、子どもたちの登校への意欲を高めてまいります。

特別支援教育については、教育支援委員会との連携を深めながら、個別の教育支援計画や指導計画に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援が進められるよう、学校の取組を支援してまいります。

本市の学校教育基本計画は、平成三十年度で期間が終了しますので、教育関係者や保護者、地域、有識者で構成する検討委員会を設置し、登別の実情に合わせた教育の在り方や学校の適正配置などの課題を整理したうえで、新しい計画の策定に取り組んでまいります。

次に、社会教育についてでありますが、新たな学習機会の創出や多様な地域活動が展開されていく「知の循環型社会」の構築を推進していくとともに、市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、第五次登別市社会教育中期計画に基づく、各種施策の展開に努めてまいります。
また、本市においては、「学校支援地域本部」として、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築してまいりましたが、今後は、「学校と地域がパートナーとして、ともに子どもたちを育て、ともに地域をつくる」という中央教育審議会答申を踏まえ、この組織を基盤に、これまでの活動を充実させながら「地域学校協働本部」へ発展するよう取り組んでまいります。

ふるさと学習については、本市の歴史や文化、昔の暮らしを学ぶ機会の拡充を図り、市民意識の醸成と郷土に対する愛着が一層高まるよう努めてまいります。
また、アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組を支援してまいります。

家庭教育については、引き続き市内幼稚園や小学校に家庭教育学級を開設し、学習会や活動展等を実施するとともに、親子のふれあいの場を創出する家族の時間づくりプロジェクトに取り組み、家庭の教育力の向上に努めてまいります。
また、地域ボランティア団体などの協力を得て実施している通学合宿や放課後子ども教室は、子どもたちの生活習慣や学習習慣、協調性、自主性を育む機会として成果を上げておりますので、引き続き事業の充実に取り組んでまいります。

青少年の健全育成については、登別市青少年センターを中心に、巡回指導や関係機関・団体との連携、不審者への対応などに取り組み、良好な環境の確保と非行防止に努めてまいります。

文化・スポーツの振興については、平成二十八年度は文化庁の事業や西いぶり定住自立圏合同文化事業を活用して「能楽」や「文楽」などの伝統芸能に触れる機会を設けてまいりました。
新年度も引き続き、登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会、登別市体育協会などと連携をして、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催に取り組んでまいります。

学校給食については、衛生管理の徹底を図るとともに、学校生活管理指導表を活用したアレルギー対策を実施し、安全・安心な給食の提供に努めてまいります。

図書館については、図書資料の整備や情報の提供、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに、図書館運営の指針となる図書館ビジョンの策定に取り組んでまいります。
また、第二次登別市子ども読書活動推進計画は平成二十九年度で期間が終了しますので、登別市立図書館協議会の意見を伺いながら、新たな計画の策定を進めてまいります。

以上、平成二十九年度の重点について申し上げましたが、教育委員会としましては、登別市教育大綱を基に、人材の育成は豊かな未来を創り上げるための礎であるとの認識に立ち、各種教育施策を推進してまいります。

市民の皆様並びに議会議員の皆様のご理解とご協力を、心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

全体目標

登 別 市 民 憲 章

登 別 市 総 合 計 画

登別市生涯学習基本構想

登 別 市 教 育 目 標

具体的な計画

学校教育基本計画（H21～H30）

重 点 1
子どもたちの「生きる力」の育成

1，確かな学力向上
- ①基礎・基本の定着
- ②思考力、判断力、表現力等の育成
- ③学び続ける意欲の醸成

2，豊かな人間性の育成
- ①豊かな心を育む教育の充実
- ②生徒指導、不登校対策等の充実
- ③教育相談の充実

3，たくましく生きるための健康や体力づくり
- ①健康や体力づくりの推進
- ②食育の推進
- ③地域との連携
- ④指導者、指導技術の充実

重 点 2
地域に根ざした魅力ある学校づくり

1，特色ある教育活動の推進
- ①時代の変化に伴う教育課題への対応
- ②総合的な学習の時間の充実
- ③体験学習の充実
- ④情報機器の効果的な活用

2，開かれた学校づくりの推進
- ①学校公開や地域交流推進
- ②家庭・地域との連携推進
- ③地域の教育力の活用
- ④学校評議員・学校評価の活用推進

3，教育環境の充実
- ①児童生徒の安全確保
- ②安全で衛生的な教育環境の充実
- ③特別支援教育の体制づくり
- ④教職員の資質能力の向上

第5次社会教育中期計画（H28～H32）

1 総論

2 人づくり

(1) 青少年世代
これからのまちづくりを担う青少年の健全育成
地域教育力の向上

(2) 成人世代
学習意欲の向上の奨励と
地域活動の担い手の発掘・育成

(3) 高齢者世代
学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の
活躍による地域教育力の向上

3 家庭教育
「家族の時間」の充実
社会全体での家庭教育の支援

4 文化活動
第2次登別市文化振興基本計画に沿った
文化活動施策の推進

文化振興基本計画 （H27～H36）

5 健康づくり・スポーツ
第2次登別市スポーツ振興基本計画に沿った
スポーツ施策の推進

スポーツ推進基本計画 （H27～H36）

6 学習環境の整備
学びの循環と市民の学習の場の確保

点検・評価

教育員会点検・評価

教育行政執行方針の自己評価

教育委員会活動報告

学識経験者による評価・意見

事務事業評価

- 予算を伴う事業の評価
- 担当による自己評価

各種基本計画の進捗状況

- 学校教育基本計画
- 第5次社会教育中期計画
- 文化振興基本計画
- スポーツ推進基本計画